

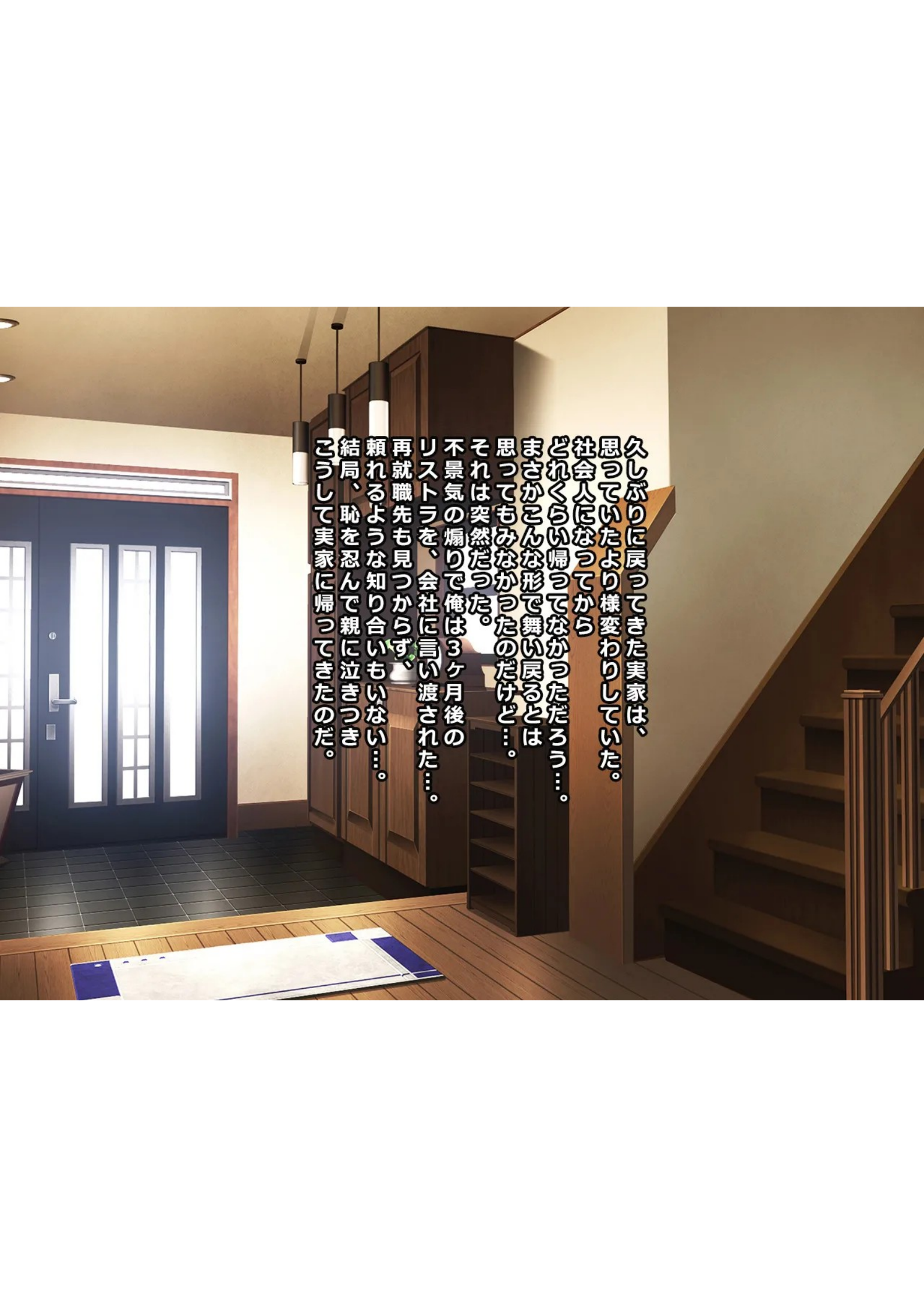
大きな胸を揺らし、微笑むアキエさん。  
これが、俺とアキエさんとの  
濃密な5泊6日の始まりだった……。

「ウフフ…ユー、ワタシが止まる  
プラベートホームの人ですか？」

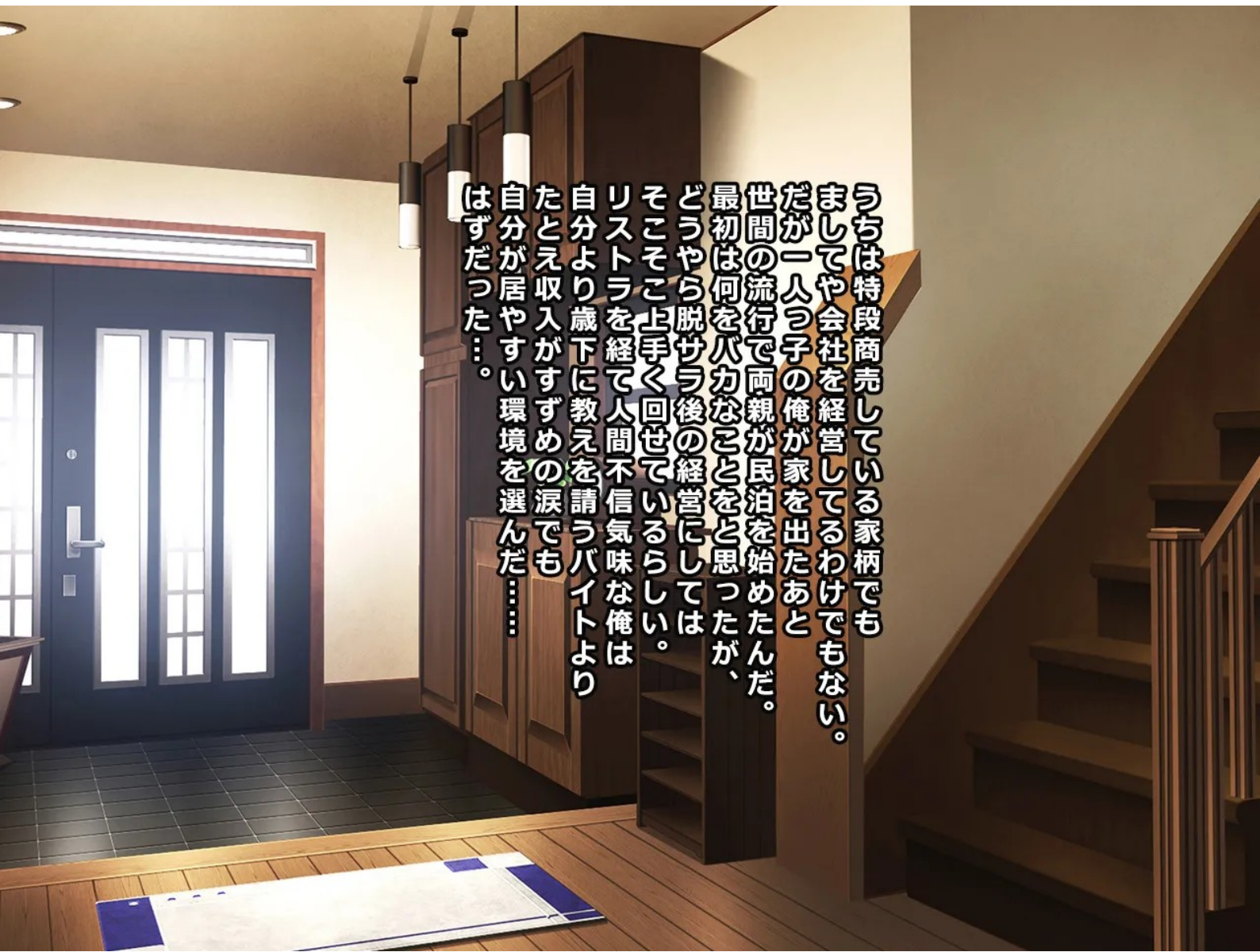
「あ、は、はい！」

岡田雄二です！」


**人気の爆乳ハーフ妻 アキエ**  
5年前、とあるホームステイ坊やとの出来事



久しぶりに戻ってきた実家は、  
思っていたより様変わりしていた。  
社会人になってから  
どれくらい帰ってなかっただろう…。  
まさかこんな形で舞い戻るとは  
思ってもみなかったのだけ…。  
それは突然だった。  
不景気の煽りで俺は3ヶ月後の  
リストラを、会社に言い渡された…。  
再就職先も見つからず、  
頼れるような知り合いもない…。  
結局、恥を忍んで親に泣きつき  
こうして実家に帰ってきたのだ。



うちは特段商売している家柄でも  
ましてや会社を営んでいるわけでもない。  
だが一人っ子の俺が家を出たあと  
世間の流行で両親が民泊を始めたんだ。  
最初は何をバカなことかと思っただが、  
どうやら脱サラ後の経営にしては  
そこそこ上手く回せているらしい。  
リストラを経て人間不信気味な俺は  
自分より歳下に教えを請うバイトより  
たとえ収入がはずめの涙でも  
自分が居やすい環境を選んだ……  
はずだった……。



丁度仕事を手伝って一ヶ月！  
俺もなんとなく慣れてきた頃、  
母方の祖母が、長野の田舎で  
倒れた…。

当然「俺も付いて行くのか？」と  
聞くと母はとんでもないことを  
回したのだ。

今日から5泊で  
予約が入ってるから  
断るのも可哀想だし、  
あんた頼むわ

……は？

夕方に駅に迎えに  
行ってあげて頂戴。  
大丈夫、日本語できるって  
言ってたから  
心配することないわよ

……え？ ちよつと！

俺1人じゃ……

てか、俺今、人見知り  
真っ最中だし……

じゃ、任せたわよ？  
お父さん、ほら急いで！

ちよつ、父さんから  
なんか……

ボタン……

……う、嘘でしょ？

……どうして俺は、

半ば強引に民泊の経営を  
任されることになって  
しまったのだった。

とはいえ、宿泊客の予約があるなら無視するなんてことは出来ない。俺は渋々とはいえ、駅前に宿泊客をピックアップに向かった。

えっと…名前は…アキエ・イツカワ…え、日本人？ そういう名前なのか？

しかし、困ったことに写真はない。名前的に日系の可能性もあるし、外見がわからないなら、向こうからの連絡を待つしかないのかも…と、逃げ腰になりかけたその時一際目立つブロンドの美女が俺の前を横切った。

もしやと思い、俺は責任感から  
咄嗟に声をかけた。

あ、あのっ、もしかして  
アキエ・イツカワさん、  
ですか？

立ち止まった女性が振り向き  
訝しげにサングラスをずらす。

あちゅ♡

あちゅ♡

あ、えつと…み、民泊…  
あれ、英語で何ていうんだ？  
民泊…

You mean,  
rental private home..



あ？…えっ？

…民泊？英語で  
言ってみたよ

あ、はい…あ、  
ありがとう…え？

ウフフ…ユー、  
ワタシが泊まる  
プライベートホームの  
人ですか？

あ、は、はい！  
岡本雄二です！  
…あ、そうか。  
日本語話せるんだ…

イエス。ワタシの  
母、日本人よ。  
日常会話レベルなら  
全然オスね！

よ、よかつたあ…  
それに、  
無事に合流できて  
本当によかつた！

フフ、可愛いボーイ…  
これから5日間、  
どうぞヨロシクね！

大きな胸を揺らし  
微笑むアキエさん。  
これが、俺とアキエさんとの  
濃密な5泊6日の  
始まりだった…。

民泊にアキエさんを連れ帰り、  
軽く家の中を案内する。

奥がトイレとバスルーム、  
部屋はゲストルーム札が  
かかっている部屋を  
使ってください。  
あと何かあればお気軽に



オス！サンキュー、  
ユージ！

え、えっと、  
は、はい…

ん？どうかした？  
ワタシ、変なこと  
言ったかな？

い、いえ、そのお…  
なんだか呼び捨てって、  
久しぶりで違和感が…

じゃあ……  
ユージ、さん？

う…もつと  
ドキッとする…

ドキッと…ホワイ？

い、いや、なんでも  
ないです…。  
じゃ、じゃあ、ユージで、  
呼び捨てでいいです…



イエス♪  
わかりました♪  
ヨロシクね、  
ユージ♪

ハ、ハハ…  
よろしく、です…  
と、ところで、  
ご飯はまだですか？  
出前になっちゃうけど、  
食べたい物があったら  
言ってください

ワオ、デリバリー  
サービス？  
ワタシ、ラーメン  
食べたいです！





食事も終わり、  
洗い物も済ませると  
リビングでくつろぐ  
アキエさんのもとへ  
ビール片手に向かった。

どうぞ。ビールでいいですか？

サンキュー。大好物よ！ワッオ、  
ジャパニーズブランド大好きです！

よかつた。じゃあ、そうだな…  
ようこそ、日本へつてことで…

らん♪カンパニー♪

クエン…クエン…

350mmの缶ビールを  
アキエさんは勢いよく飲み干した。



プハッ…あゝ、美味しい♪

一気飲み…強いんですか？ お酒…

驚くことじゃないよ。アメリカ人は週末みんなでパーティーするし、これくらいみんな普通よ？

そ、そうなんだ…

ユージはしないの？  
パーティー

うん、昔は職場の飲み会には行ってたけど、リストラされてから実家に帰ってきちゃったし、そういうのは縁がないというか…



リストラ？

…し、しまった。つい言ってしまった。  
身の上話なんて白けるに決まってる。  
…これは話題を……

あ、気にしないで。ああ、そうそう、  
アキエさんは何で民泊を選んだんです？  
ホテルとか他にもいっぱいあるのに……

!!

うん、ワタシ、日本の家庭が好きなの。  
グランマが亡くなつて日本に来ることも  
少なくなつて、何だか日本の家庭の  
雰囲気、恋しくなつちやつてね……

そうなんです…それで1人旅を……

え？ノーよ？あとからダーリン？  
えっと、旦那さんも来るよ？

…へ？旦那さん？

うん。ビザの関係でダーリンだけ  
来るのが1週間後になっちゃったの。  
本当は一緒に来てマイホームを  
探したかったんだけど、ダーリンが  
どうせなら楽しんできていって♪

だからワタシだけ  
先に日本に行つて  
やりたいことを  
楽しむことにしたの。  
つて、言つてなかつたね

あ、いえ…で、ですよね！  
こんな綺麗で気さくな人だし、  
相手がいない方が不思議ですよね！

…つて、これじゃ逆に  
俺が期待してるみたいじゃないか…。



ユージは？

…は？

ユージは…あゝ、ワイフ？奥さん？  
いないの？フィアンセとかは？

い、いえ、俺はそういうの、全然…

全然？全く？今までは？

前に1人だけいましたけど…その…  
ちよつと、酷い失恋しちゃつて…

…酷い失恋？どんな？

え、ええ…寝取られ…えつと…  
他の人に、取られちゃつてですね…

どうして？ユ一、とってもキュート。  
誠実そうで素敵な人だと思うのに…

キ、キュートって…気弱なだけです…  
失敗が怖くて、積極的になれなくて…  
日本の女性って引つ張つてくれる男に  
弱いですからね…アハハ



そうなんだ…ユージ可哀想…

それからあまり、そういう気分には  
なれなくて…結婚なんて夢のまた夢…  
…あ、すみません、つまらない話して



ううん、謝ることじゃないよ…  
ソーリー…ごめんね。無理に聞いて…

つぶらな瞳でアキエさんが近づくと、  
眉根を寄せた優しい顔で  
軽く頭を撫でられ、  
不覚にも俺は胸が高鳴ってしまった。



あゝむ、無理じゃないです！  
大丈夫です、全然っ！逆に話せて  
スッキリしました！アハハ！

焦って後ずさると、アキエさんは  
小さくフツと笑った。

そう？ならよかった♪

しかしその見上げ視線は  
酒のせいかわ潤みを増して見える。



でも、もったいないね!!  
ワタシにダーリンがいなければ  
放っておかなかいくらい、  
可愛いボーイなのに!!

……え?

一瞬の沈黙……  
今、何て言った?  
俺の聞き間違い?  
でも、この沈黙は  
気まずい……!!

……あ、そ、そうだ、お風呂!  
お風呂湧いてるんでどうですか?  
旅の疲れも溜まってるでしょう?

赤みが増しそうな  
顔を誤魔化すため  
俺は民泊の仕事に逃げる。





オ、お風呂！大好きです♪

じゃ、じゃあ、ここは片付けとくんで、  
行ってきてください。トイレの隣が  
バスルームになつてますから！

サンキュー♪  
じゃあ、行ってきます♪

楽しそうに部屋を出るアキエさん。  
それを見送り、俺は残ったビールを  
一気に流し込んだ。

…ハア…何を焦ってるんだ、俺は…  
相手は旦那さんいる人だぞ…

そのままソファーにもたれ、  
さっきの笑顔を思い出し、俺は1人  
恥ずかしさに頭を振った。  
このすぐ後にあんなことが起こるなんて、  
1mmも想像せずに…。




ほどなくして、リビングの外から  
パタパタと足音が聞こえた。  
きつとアキエさんが着替えを持って  
バスルームに向かったのだろう…。  
そんなことを思いながら、  
俺はリビングの片付けや洗い物をして  
気持ちを鎮めようとしていたのだが…

……あっ！

ふと思い出した。  
一昨日帰った宿泊客の使った洗濯物、  
俺はコインランドリーの乾燥機代を  
ケチってペランダに干したんだっ！  
アキエさんはお風呂に向かったばかり、  
今ならまだダッシュで間に合うはず！





俺は2階に駆け上がり、  
バスタオルを1枚回収すると、  
飛び降りる勢いで風呂場へ向かった。

カチカチカチカチ...

あ、あの、アキエさん？  
ごめんなさい、バスタオルが...

すると.....ガチャ.....

What...?

……おめ……  
うっ……？



：俺が悲鳴をあげそうになった。  
そこには下着姿のアキエさんが  
特に体を隠す様子もなく、  
ドアを開け広げて立っていらたから……。

いっパ：バス、  
バスタオルいっ！

オ、サンキュー♪  
どこにあるのか探してたよ♪

無邪気に微笑むアキエさん…  
だが今、俺の目が行ってしまうのは  
当然そこではなく…  
見ないようにしても目に入る物…



これ、デカすぎだろ…  
てかブラのサイズ合ってるのか？  
はみ出した乳輪もさることながら  
ダイナマイトボディの割に  
引き締まったくびれ…

ふるん

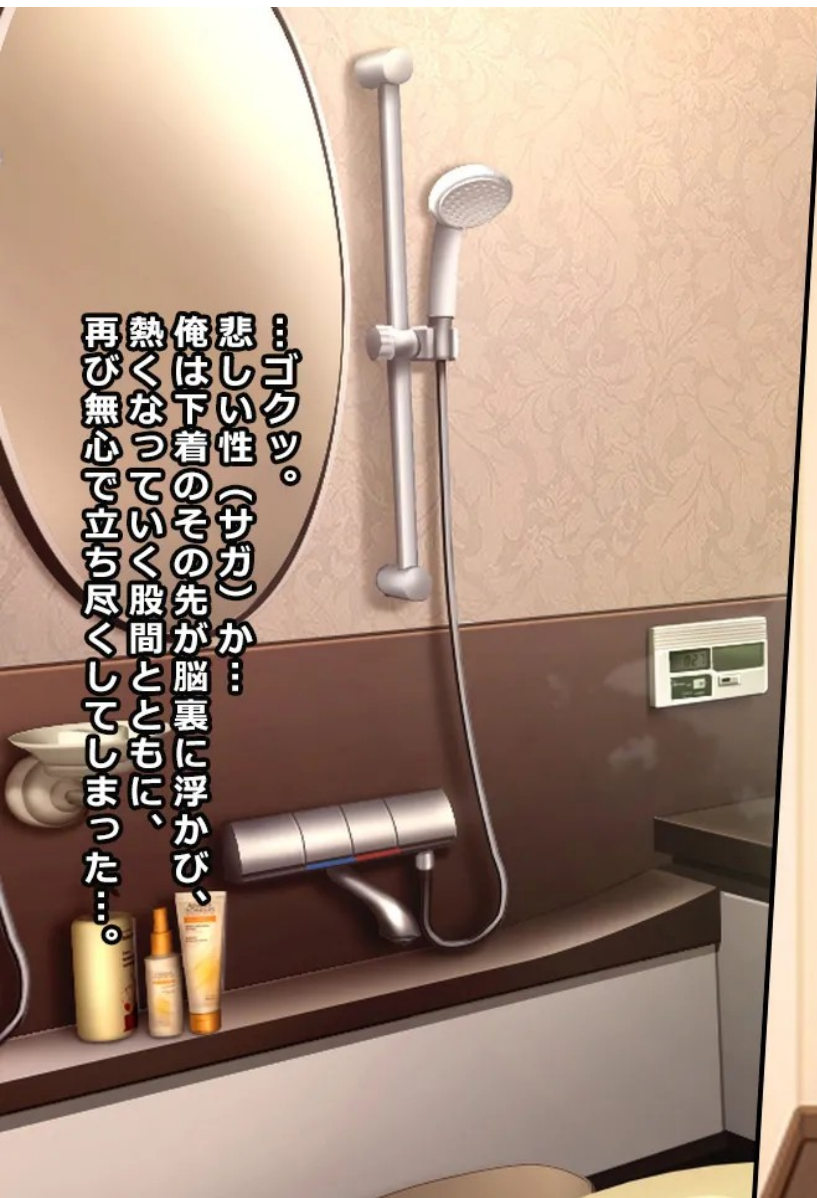
それにパンと張ったお尻…  
理想の黄金比なんて物じゃない。  
美の女神がいるのなら、  
まさにこのことと言わんばかりに、  
俺の視覚は否応無しに  
その姿を焼き付けようとする。



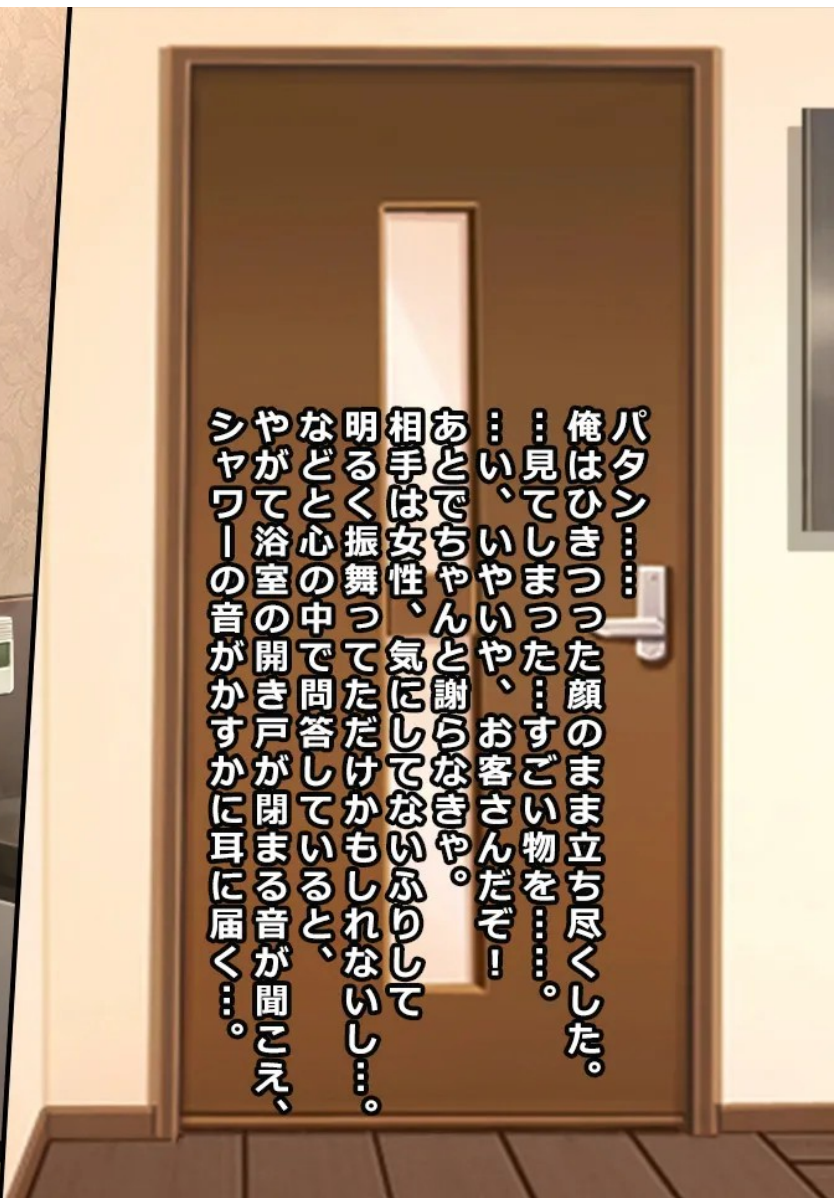
あ、ソリー…  
ごめんね。こんな格好で…

あう、いやう、す、すみませんう！  
ご、ごめつくりごうぞう！！

サンキュー♪ また後でね♪



…ゴクツ。  
悲しい性（サガ）か…  
俺は下着のその先が脳裏に浮かび、  
熱くなつていく股間とともに、  
再び無心で立ち尽くしてしまった…。



パタン…  
俺はひきつった顔のまま立ち尽くした。  
…見てしまった…すごい物を…。  
…い、いやいや、お客さんだぞ！  
あとでちゃんと言わなきゃ。  
相手は女性、気にしないふりして  
明るく振舞ってただけかもしれないし…。  
などと心の中で問答していると、  
やがて浴室の開き戸が閉まる音が聞こえ、  
シャワーの音がかすかに耳に届く…。

リビングに戻ってからも  
さっきのアキエさんの姿がチラついた。  
それに、あの時の……

「でも、もったいないね……  
ワタシにダーリンがいなければ  
放っておかないくらい、  
可愛いボーイなのに……」

……あれはどういう意味だったのか。  
もしあのまま俺が誤魔化してなければ  
俺は今頃、アキエさんと……。  
そう思うと、治まりかけた股間が  
再び熱を帯び始める。

くっ……あれは冗談だ、そうに違いない！  
からかつていなくても、  
アメリカ人のリップサービス的な……。っ  
い、いいから、アキエさんが戻る前に  
さっさと治まってくれよっ……。っ  
と、洗い物をしながら  
股間の罪悪感に自問自答していると……

お風呂、サンキュー、ユージ♪

あ……は、早かった、ですね…

そう？でもおっぱいの下も  
ちゃんと洗ったよ？


うぐっ…今それは危険です、  
アキエさん。



ど、どうでした？  
アメリカのお風呂より  
狭かったりは…

ううん。そんなことない。  
バストブも広くて  
気持ちよかったよ♪





風呂上がりの香りと濡れ髪のアキエさん。  
その姿と発言に俺は、湯船に浮かぶ  
2つの乳房を連想してしまう。  
ああ、哀しいかなセカンド童貞…。  
久しぶりに見た女性の裸…。  
しかも超ド級のブロンド美女の…。  
今の俺には、このブロンドの客人は  
刺激が強すぎるようだ…。

どうしたの？ 顔が赤いけど…  
もしかして、ビールで酔っちゃった？

い、いえつ、そんなことは…  
酔った発言なら、アキエさんの方が…

ん？ 何が？

いえいえつ、  
何でもありません…

…ほ、ほらね。やっぱり冗談だった。  
酒のテンションで出たことなんか  
深い意味があるわけじゃないか…。



あ、それより、さっきは、その…  
す、すみませんでした！  
脱衣所に押しかけてしまつて…


ううん、ノープロブレムよ。  
バスタオルありがとう、助かつたよ

笑顔で何事も  
なかつたかのように  
返すアキエさんだが、  
俺はつい、  
さっきの強烈な姿を  
思い出してしまふ。

あ、そうだ。  
バスローブ出しますね！  
ベッドの用意は出来るので、  
よかつたら使ってください

来客用のクリーニング  
カバーに包まれた  
バスローブを手渡すと、  
アキエさんは…

サンキュー♪  
じゃ、また明日ね♪



と、何事もなかったかのように  
客間へと去って行った。

当然、この後の誘いなんて、  
あるわけない…よな…。

つて、何を期待してるんだ俺はっ！

…う、うん、今日のこととは、

俺の心の内に仕舞っておこう…。

明日からこの家で快適に

アキエさんに過ごしてもらうためにも…。



グッモーニン、ユーヅィ♪

アキエさんは普段着姿で  
リビングにやってきました。

あ、おはようございます、  
アキエさん。  
昨日はよく眠れましたか？

うん、寝心地  
ベリーナイスだったよ

それはよかったです。  
じゃあ、朝食にしましょうか



パンとコーヒーとサラダ…  
簡単な物を俺にも作れる範囲で  
用意した無難な朝食メニューだ。

サンキュー、ユージ♪

やはりアキエさんは  
昨日のことは  
気にしていないようだ…。

きつとアメリカでもモテる人だろうし  
アキエさん、見られ慣れてるのかな？  
それとも欧米では、これくらいのことは  
当たり前のことなのだろうか…。  
それとも、俺は恥じらうほどの男に  
入っていない…とか？



うん、デリシヤス♪  
クッキング得意なんだね、  
ユージ♪

い、いえ、簡単な物なので…

…ああ、心の内に  
仕舞うと決めたのに  
俺だけドギマギして…  
何だか恥ずかしい。

会ったばかりの彼女が、  
なぜこんなに  
気になるのだろう…。

人見知り真つ盛りな俺でも  
気さくに接してくれて、  
時折妙に人懐っこくて…。  
それに、昨日のあの言葉…  
酔ってるようには  
見えなかったけど…。





ん？ワタシ、何か変かな？

えっ！？…あ、あゝ、パンくず、  
つ、付いてますっ、ほうぺに

オーマイガー…こつち？  
ペロ…どう？取れたかな？

は…はい…大丈夫、です…

くそっ、か、可愛らっし…

こうしてると、ユージが  
ダーリンみたいよね？ ウフフ♪

……は？ ……え？

一緒にブレックファーストして  
本当のファミリーみたいってこと♪

え……でも、そんな……  
旦那さんに、わ、悪いですよ……





ね、寂しいついでに、  
今日はワタシとデートしましょ？

ブツ…!?

…コーヒーが鼻に逆流した。

ゲツホツ…ゴホツ…  
…は、はい？



…ダメ？

ダ、ダメじゃないですけど…  
…な、なんで、俺と？  
あんまりそういうの慣れてないし、  
つまらないかもしれないですよ？

ほら、それっ！ えっつと…  
謙遜、だっけ？ それよくない！

…だ、だって、昔の彼女にも、  
リストラされた会社でも、  
そう言われてきましたし…



うくん……じゃ、変わろう？  
昔のユージが嘘みたいになるくらい、  
また仕事も彼女もゲット出来るように、  
ワタシがユージのメンタルリハビリに  
付き合っあける♪

リ、リハビリ……

うん、恋にも前向きになれるように、  
ユージの心の、恋のリハビリ、かな？  
だから楽しい思出、一緒に作ろう♪

アキエさん……  
昨日の話、覚えて……



決まりね！歯を磨いたら  
早速お出かけするよ♪  
東京の名所とおいしいお店、  
一緒に楽しもうね、ユージ♪

…それ、まさか俺に  
観光案内させるのが目的では…

フフ、細かいことは  
気にしない♪  
さ、食器を片付けましょ♪

すでに乗り気の  
アキエさんのペースに  
巻き込まれ、  
俺は言われるがまま  
アキエさんと片付けを  
始める。





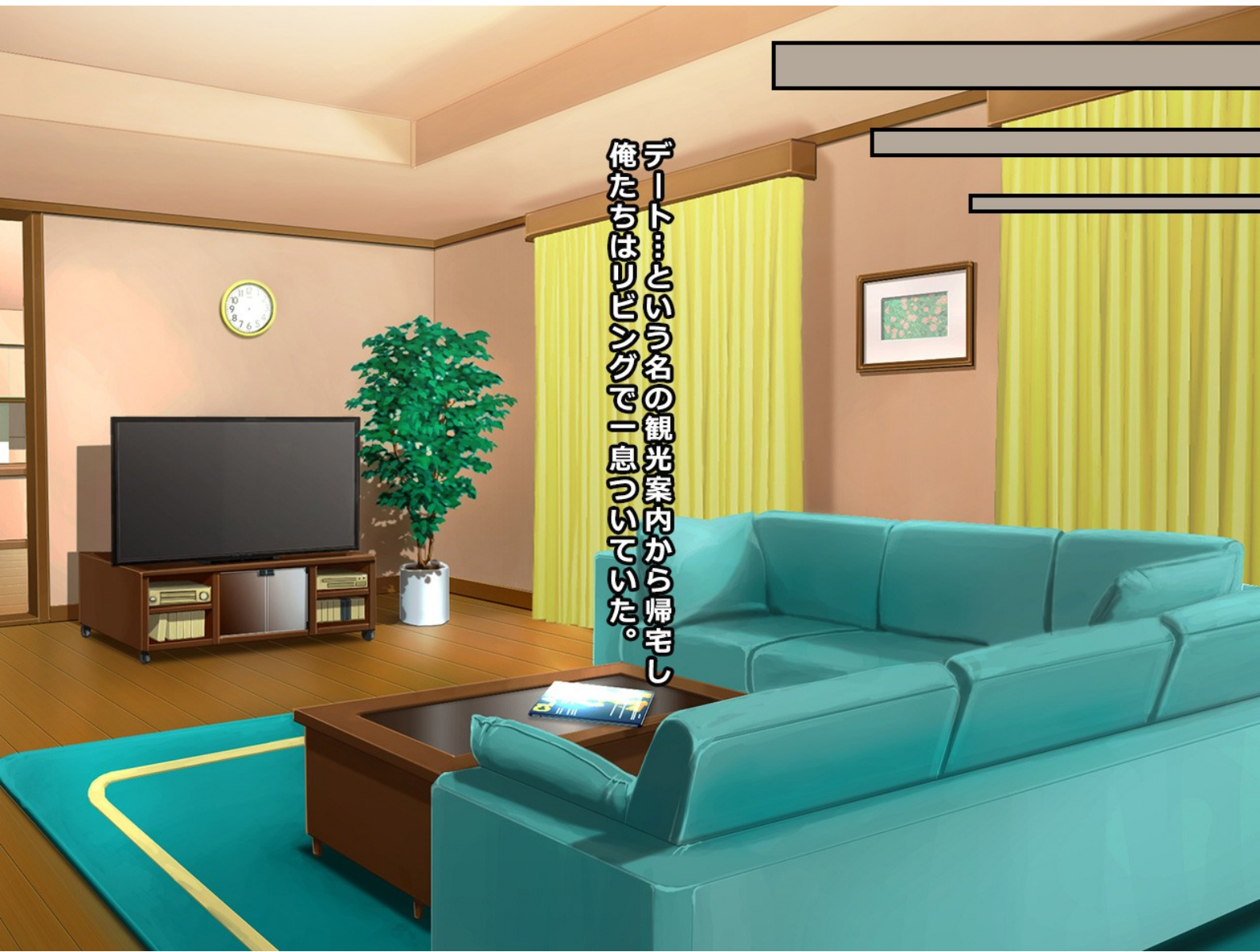
え...?

...でも、本気になつちやダメよ？

微笑みながらつぶやいたアキエさんは、  
そのままキッチンへ食べ終わった食器を  
運んで行った。。  
俺への警告：それとも、自分への戒め？  
いやいや、それこそ自意識過剰だ。

洗い物は俺がやりますよ。  
お客さんには  
やつてもらおうわけには  
いきませんから

俺は改めて自意識を逸らすために、  
そう言っただけアキエさんを追うように  
キッチンへと向かった。



デート…という名の観光案内から帰宅し  
俺たちはリビングで一息ついていた。

あゝ、楽しかった♪スカイツリーも  
登れたし、ウナギもデリシヤス♪  
本当にサンキューよ、ユージ♪

アハハ、よかったです。  
楽しんでもらえたようで!!!

ユージは楽しくなかった?

いえ、楽しかったですよ。  
ちよっと周りの目が痛かったけど!!!



ウフフ、みんなワタシたちのこと、  
カップルだつて思つて見てたのかな？

そんなわけ……  
ブロンド美人と平凡な日本人で  
不釣り合いだつて思われただけですよ



ノー！ その後ろ向きな考え、  
ノーノーノーよ、ユージ！  
ユージはもっと自信持っていていいの！

アキエさん……あ、ありが……

オス！ ユーが自信持てるように、  
ワタシがエールを送ってあげるわ！  
ちよつと待っててね！

えっ……あ、あのっ……え？





俺を置き去りに、パタパタと  
リビングを出て行くアキエさん。  
数分後、再びリビングの扉が開き…



勢いにつられて見た先には、  
これまた何とも言い難いほど、  
セクシー極まりない格好のアキエさんが  
自信満々なポーズで立っていた。

キラ

キラ

Hey-- Look at me--  
.....は？

どう？ちよつとキツいけど、  
今でも似合ってるでしょ？

状況が飲み込めず俺はフリーズ。  
ダイナマイトボディが  
さらにパツパツになって  
今にもこぼれ落ちそうな胸に  
つい目がいってしまい  
俺は発する言葉にすら困った…。

しかしアキエさんは  
それを疑問符と受け取ったのか、  
今の状況の説明を続ける。

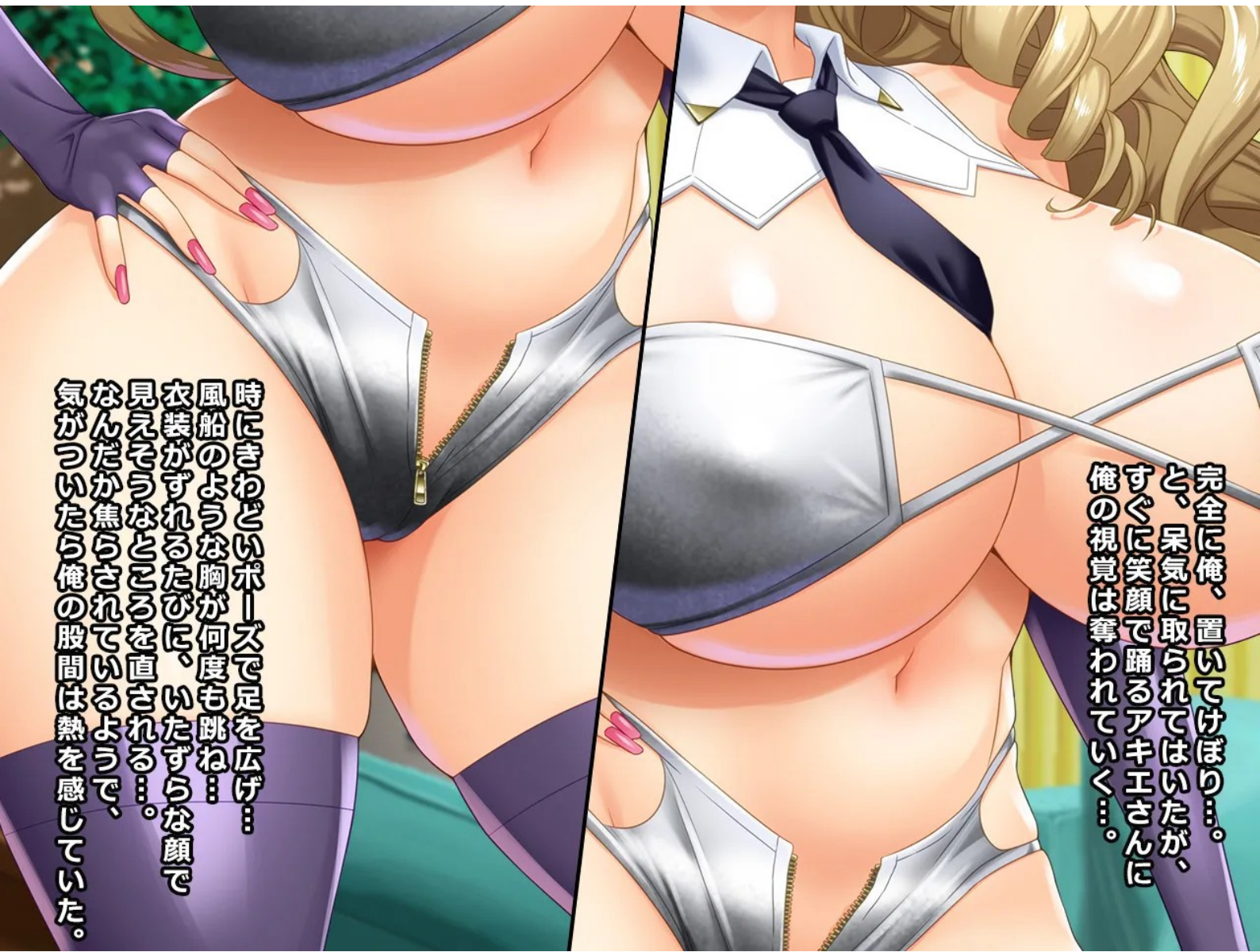


ワタシ、学生の頃は  
チアをやつてて  
ダンスが得意なの♪

それに今はポールダンスの  
インスタラクターもやつてる。  
だから、ワタシのダンスで  
ユージを応援してあげるね♪

そう言うと、否応無しに  
アキエさんは  
ダンスを開始する。





完全に俺、置いてけぼり…。  
と、呆気にとられてはいたが、  
すぐに笑顔で踊るアキエさんに  
俺の視覚は奪われていく…。

時にきわどいポーズで足を広げ…  
風船のような胸が何度も跳ね…  
衣装がずれるたびに、いたずらな顔で  
見えろうなところを直される…。  
なんだか焦らされているようで、  
気がついたら俺の股間は熱を感じていた。

さあ、立ってユージ!  
ユージも一緒にレッツダンスよ!

えっ...いい、いや、俺は...

ノーノー! 体動かすと気分も  
スッキリするよ! さあ立って?

...いや、もう勃ってる...



What's...  
どこが具合でも悪いの？

すいっと、サングラスを外した  
アキエさんの顔が近づいた。

ほんのり香る汗の匂らと、  
しっとり露出した  
胸のジャンボ風船！  
：やばい。昨日の下着姿が  
また脳裏に...。

股間を隠すように  
身じろぎする俺に  
さすがのアキエさんも気づき、  
困ったように小さくため息を  
ついた。



「ソリー、刺激的すぎた？」

「は、はい、ちよつと…」

「フフ、可愛いボーイ！  
でも男の子なら、  
それは健全な証拠よ。  
安心したわ。」

「逃げ出したいくらい  
恥ずかしくなつたが、  
アキさんは俺から  
離れようとせず、  
それどころか…」

健全な男の子なら、こっちの方が  
スッキリ元気になるかもね！ウフフ♪



と、はち切れんばかりのシャツの  
つなぎ目を、シユル…とほどき、  
俺のスポンに手をかけたのだ。

えっ、ちよつと、アキ……あつ

信じられない光景に  
俺の思考は混乱する。

ずり下ろされたズボンから  
解放された俺のチンポを、  
アキさんの爆乳が  
パクッと挟み込んだのだ。



フフ…熱い…  
ここは十分元気なのにね…

え…あの…は



たばっ…たばっ…  
たばっ…たばっ…

昨日は見えなかつた  
乳首も丸見えのまま  
アキエさんの  
おっぱいが、俺を挟んで  
上下に揺れ動く。

おっぱい  
おっぱい

モキッ  
モキッ



「どうなの、嫌い？」

「っ、き、嫌いじゃ、  
ない、です！」

「けど、なんで？  
と続けようとするも  
初めて味わう快感に  
言葉が出ない。」



……あつ……

フフ、キモチい？  
ティツツフアツク  
…えつと、パイズリ？  
は、初めて？

は、はいつ……

じゃあ、  
レツツティーチ…  
キモチよく、  
スツキリしてね…

にちゅ…くちゅ…  
すっかり感じ始めた  
俺の鈴口が  
恥ずかしいよだれを  
出し始めた。



ワオオ！ユージ感じてる…  
あつたかいジューズ、  
いっぱいよ…

アキエさんは妖艶な雌の顔で  
我慢汁がほとばしる俺の先端を  
愛しそうに見つめている。

ぬさっ  
ぬさっ  
ぬさっ  
ぬさっ

もぎゅん



アハ、美味しそう…  
ちゅ、ちゅちゅ

うあつ…はっ、  
あつ…!

しゅ  
しゅ

フフ、可愛い…れる…  
ユージの顔も、  
正直なペニスも…  
ちゅちゅ、ちゅるる

アキエさんっ、  
それ、やばいっ…





ワオ！サムライボーイ！  
鉄みたいに硬い！  
まるで刀みたい！

ぬちゃっ…ぬちゃっ…  
うっとりしつつアキさんは  
腫れ上がった先端にキス。そして…



ちゅーちゅちゅーれろろ…  
れろろろ…えれれれれれ…

鈴口からカリ裏を  
高速でいじめられ  
俺の腰はびくんびくと  
大きく跳ねる。

ちゅーちゅー  
ちゅーちゅー

ふあつーそれっ、  
ああつー…  
そこ、弱っ…っ、  
くううっ…



んふ…どくどく…  
カウパー…いっぱい…  
もったいない…  
全部飲んじやいたい…

っしゅぎゃぎ、口を尖らせ…

んぢゅ…んぢゅ…  
くぷっ…くぷうっ

ついに、俺のカリ全体が  
唇の中で……



ちゅぶつ、ちゅぶつ…  
ずず…ちゅらう…  
くつぷくつぷくつぷ

く~~~~つ…  
アキエさん、ら、らめ

ぱっちやぱっちや  
ぱっちやぱっちや…  
俺の腿を叩くほど  
早くなるパイズリ。  
それに比例し先端フェラも  
早く、深く…。



めぢゅ  
めぢゅ

ぱんぱん  
ぱんぱん

ぱんぱん  
ぱんぱん

ちゅっぶちゅっぶ、  
ぐぶっぐぶうっ  
ぢゅる…ぐっぶぐっぶ  
ぐっぶぐっぶ…

挟んでは引っ張られ、  
吸いあげられ、  
チンポの根元が  
ありえないほど隆起する。

じゅぽっじゅぽっ  
じゅぽっじゅぽっ！  
ちゅぶっ…ぐっぶ  
ぐっぶぐっぶぐっぶ

せり上がった根元で  
タマが縮む。



アキエさんっ、  
だめ、出るっ……

ぬぢぢっ  
ぬぢぢっ  
ぬぢぢっ  
ぬぢぢっ

ぢゅっぶぢゅっぶ  
ぢゅっぶ……ぐぶぶ……  
……っ、ぶぐっ、フっ……

はははははは  
はははははは  
はははははは

はははははは  
はははははは  
はははははは





あまのこ

あまのこ  
あまのこ  
あまのこ

止まらない精液の噴出に  
俺は何もかもが  
真っ白になった。

…ぐぶっ…フー、  
フー…ちゆる…  
ごくっ…んっく…  
んく、んっくん…

あふれ続ける精液を、  
アキさんは  
丁寧に、出し終わるまで  
飲み続ける。

…ちゅっ…ちゅっ…  
ずずず…

尿道に残った精液も  
指で絞り出し、  
ストローを吸うように  
吸い続ける。

んあっ…あああっ…  
アキ、エ…っ！

射精後の敏感な  
龟头を吸引され、  
俺はクワをイジられる  
女の子のように  
身悶えを繰り返す。

アキさん



ちゅ、じゅ…ちゅぽっ…  
んっ、ふ…  
ハア、ハア、ハア…  
いっばい、出たね

ようやく口を外した  
アキエさんが  
吸いこぼした精液を  
ペロリと舐めた。

文字通り空っぽに  
されてしまった俺は  
その妖艶な美しい顔を  
ただ呆然と見つめる  
ことしかできない。




フフ、スッキリした？  
ちよつと  
汚れちゃったから、  
お風呂、先に  
入らせてもらうね♪

荒い呼吸で頷くまじが  
できない俺。  
その頭を優しく、軽く撫で、  
アキエさんはリビングから  
出て行った。



…何だっただ、今は…。  
夢のようなひとときを経て、  
下半身丸出しで取り残された俺は、  
呆然とリビングの天井を見上げていた。  
全部吸い出され萎えかけたチンポが、  
バカみたいにかウパー腺液を垂らす。  
本能に忠実なチンポ同様、  
俺も興奮が冷めやらないでいた。



A 3D-rendered scene of a room. On the left wall, there is a round clock with a yellow border. Below it is a large black television on a wooden stand. In the center, a green leafy plant in a white pot stands on a surface. To the right, there are yellow curtains and a portion of a light blue sofa. The text is overlaid on the scene, positioned over the plant and the wall.

やがて、着替えを持ったアキエさんが  
リビングの前を通過する足音が聞こえ、  
ハッとした俺は恥ずかしさに  
急いでスポンを引き上げる。  
その夜、アキエさんがリビングに  
戻ってくることはなかった。  
恥ずかしさと気まずさを抱えた俺は  
自室のベッドで悶々としながら、  
仕方なく右手で慰め、眠りについた…。



グッドモーニング、ユージィ

翌朝、アキエさんは  
昨日と変わらない  
明るい雰囲気  
リビングにやってきた。



お、おはようございます…

俺も笑顔を作ろうとするが  
さすがに昨日の事前、  
表情が硬くなる。

きよ、今日の朝食は、  
ご飯と味噌汁の  
日本食でいいですか？

ジャパニーズブレック  
ファースト！  
オス！健康食、大好きよ♪

戸惑っているのは  
俺だけなのだろうか？  
アキエさんは  
昨日の朝と変わらない  
気がかり1つない笑顔だ。

まさか、あんなことが  
向こうでは  
普通なのだろうか…  
いやそんなはず…。  
我ながらいびつな形の  
卵焼きを皿に盛りながら、  
俺は軽く頭を振った。



ん？ どうかした？

い、いえ…卵焼き、  
不格好だなんて

ううん、美味しそうだよ。  
ね、早くいただきますしよ？  
ワタシもお腹ペコペコなの

そう催促され、  
手早く配膳したあと、  
俺たちは何事も  
なかつたかのように  
朝食を食べ始めた。

カチャ…カチャカチャ…

食器の音が余計に大きく聞こえ、  
この一瞬の無言が苦しい…。  
しかし、沈黙を破つたのは  
やっぱりアキエさんだった。



うん、やっぱり  
日本食美味しい♪  
ね、今日は日本食  
ツアーしましょ？

え、昨日鰻食べたじゃ  
ないですか

あれはあれで楽しいけど  
ジャパニーズブード  
もつとあるでしょ？  
沢山食べてみたい、ダメ？

ダメじゃないですけど、  
うくん！  
俺、あんまり高いお店  
知らないし！



高くなくてOK、  
普通がいいの。  
えっと、定食？ イザカヤ？  
そういうデイリーライフが  
良いの

まあ、そういうことなら、  
調べれば近所にもあるか…



じゃ、それで決まりね♪  
ん、楽しみ♪  
だって日本の食べ物  
太らないのに  
全部美味しいんだもん♪

そ、それはどうなのかな…

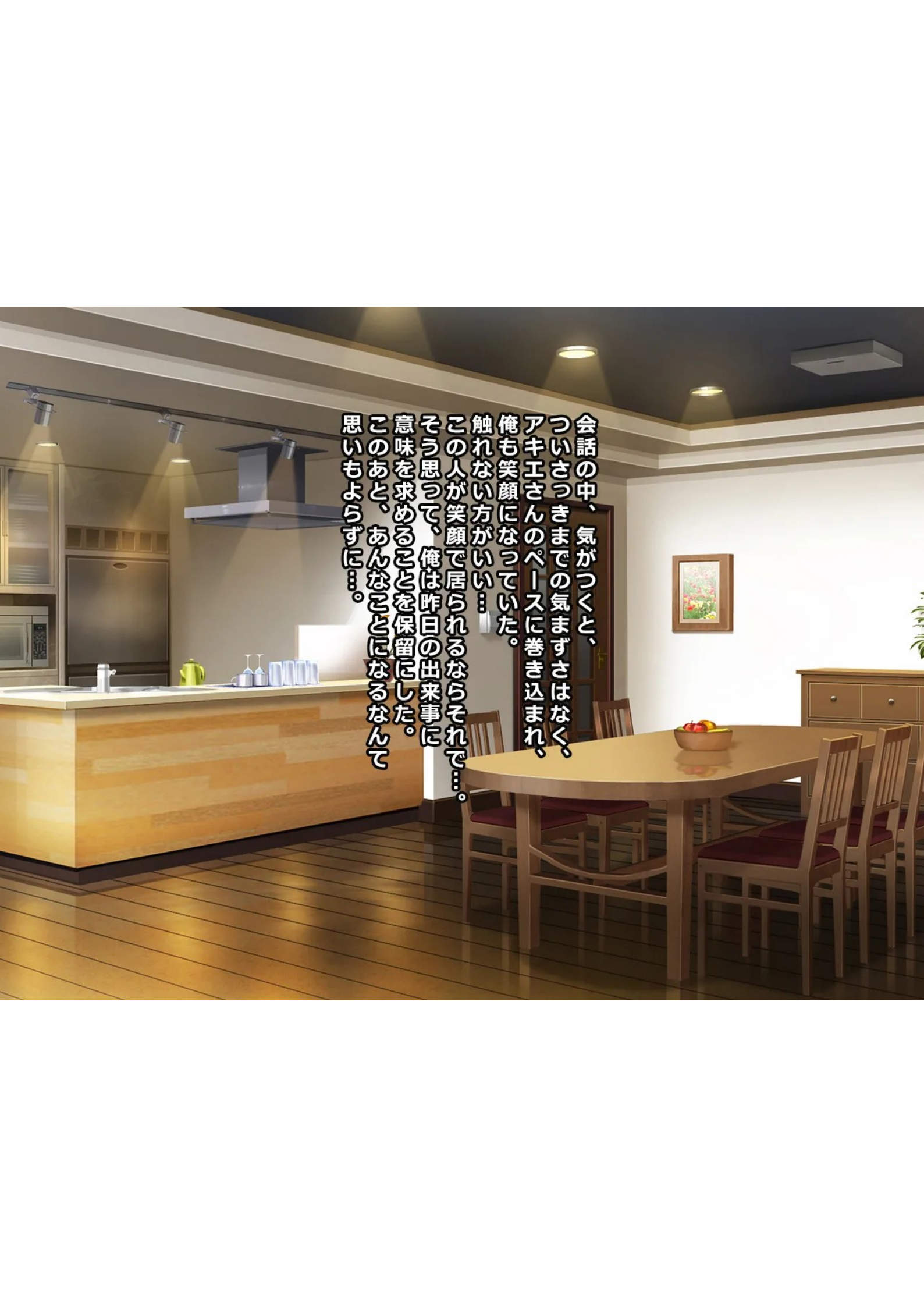
ね、今日の最後は日本酒のある  
居酒屋に連れてって？  
サラリーマンの  
アレ、きゅーっていう、感情？  
ワタシやってみたかったの♪

へ、変な外人……。  
だけど、そのテンションに  
釣られて俺もつい  
笑顔になってしまう。

フフ、わかりました。  
いいですよ。  
それじゃ、日本酒が  
豊富な居酒屋、  
調べておきますね

イエス！ サンキュー、  
ユー〜♪





会話の中、気がつく、  
ついさっきまでの気まづさはなく、  
アキエさんのペースに巻き込まれ、  
俺も笑顔になっていた。  
触れない方がいい…  
この人が笑顔で居られるならそれで…。  
そう思っで、俺は昨日の出来事に  
意味を求め、俺を保留にした。  
このあと、あんなことになるなんて  
思いもよらずに…。

その夜…

ふあゝ、もう飲めな〜いよ

帰ってきたアキエさんはベロベロだった。外国人は酒に強い…と思っていたのだが、酒の種類が違うのに、美味しさに任せてカパカパ煽ったアキエさんは、思った以上に酔っ払ってしまったらしい。

よ〜…

はは

よ〜

だ、大丈夫ですか？  
とりあえず、ソファア〜に

と、俺の肩を借りて歩く始末だ。  
しかし、ここで事件が起きた。



おっどっど……!?

2人してもつれるようにして  
ソファーに倒れこんだ。

あ、すみませ……んっ!?



あむ…ちゅ…ちゅ、ず…じゅじゅ…  
ちゅっ…ちううっ…ん、ふ…ちゅ…

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

んはま

いきなりの濃厚なキス…。  
わけもわからず、昨日と同じように、  
俺はアキエさんのペースに翻弄される。




ん、ぷはっ…ちよ、  
アキエさんっ

んあ…フフ、キス、  
しちやった…

はっ

はっ♡





見上げると、  
俺に馬乗りになった  
アキエさんが、  
とろ〜んとした目で  
俺を見下ろしている。

不意打ちのキス！  
昨日のアレをいたした  
ソファアー！  
そして馬乗りの  
アキエさんの体温…

当然、俺の股間は  
ムクムクと熱を持った。  
…やばい！俺も自制が  
きかなくなる…  
そう思った矢先…ぎゅっ！

あひっ!?

…変な声が出た。  
アキエさんが股間の  
膨らみを握ったのだ。

フフ…勃起してる…

あつ、いや、えつと…  
す、すみません…  
その昨日のことも…

…昨日? ウフフ、  
昨日、ね…

サスサスサス…  
言いながらスポンの  
上からさすられる。

昨日、あのあとユージ…  
マスターベーシヨシ、した？

…っ、う、うう…  
…は、はい…

フフ、それは…  
…ウタシで？

…はい

オスマイガ…  
アイムソーハッピー…  
嬉しい…ウタシも  
したの、オナニ…

え…？



お風呂で1回と、ベッドで1回！！  
ユ一のペニス触って、興奮しちやった！！  
だから、今日は〜！！

とろけた瞳のまま、アキエさんは  
自分のシャツに手をかけ捲り上げた。  
そしてそのまま全てを脱ぎ去り、  
俺のスポンも下ろしていく…。

今日は、最後までしよう？  
アーユーレディ！  
ワタシもユージも、  
準備はオスみたいだし！



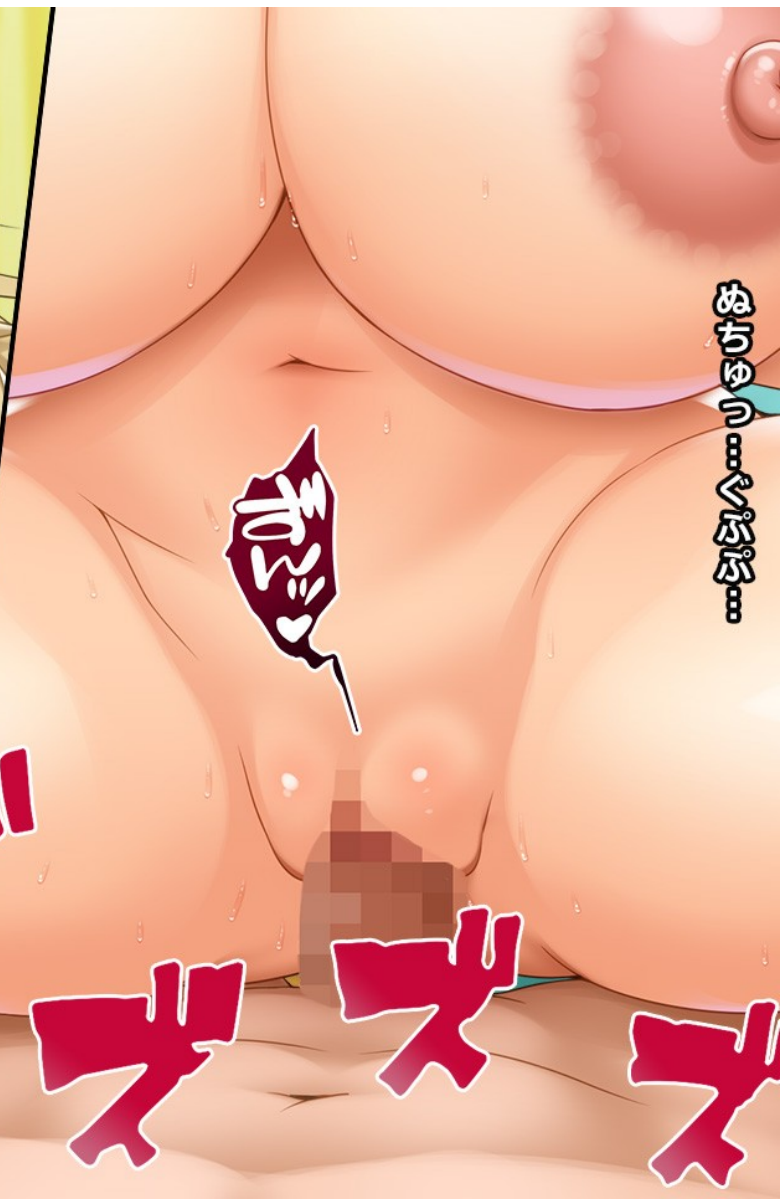
見ると、指でくぱっと広げた  
アキエさんの股間が濡れていた…。  
俺は今日も異議を唱える余裕もなく、  
なすがまま、なされるがまま、  
彼女のペースに巻き込まれていった…。



んっ...あっ、はああ.....

ハッ

肉厚の陰唇が  
ガチガチのチンポを  
ゆっくりと  
飲み込んでくっ...



...はっ...はっ...はっ...

ズ  
ズ  
ズ  
ズ

はっ...ああんっ...

はっ、ああんっ...!!

一気に最奥まで咥えこみ、  
アキエさんが俺の上で  
恍惚と吠えた。



ぬ...ぶざ...

フウ、ホオオウ：ベリーハード：  
アンド：ベリベリホットよ、ユージ：

嬉しそうに舌なめずりするアキエさん。  
そしてゆっくりと腰を上げ、  
またゆっくりとチンポを飲み込む。



ハア、あつ、うらうん、  
フツ、フウ、うん、  
あ、はあん、

……くう……

臆肉を絞り上げチンポを楽しむそれは、  
俺にとっては拷問に近いほどの快楽だった。  
肉装1つ1つがカリ首をなぞり、  
腰が落ちると一気にブラッシングされる。  
しかも俺は、生でやるのは初めてなのに  
快楽は容赦なく俺の射精感を誘発させる。



……ん、んんんん、んんんん……



今にもほとばしりそうな感覚から意識を逸らす俺の口から、不意にそんな言葉が出た。

……嫌、だった？

瞬間、アキエさんの  
動きが止まる。

嫌じゃ、ないけど……

男としての本音を吐露すると、  
アキエさんはフツと笑い……

フフ、よかった……ちゅ

いたずらに俺の唇を奪い、  
再び腰を振り始めた。



んは、あゝイエスよかつた  
ちやんと、ユーのペニス硬いまま  
は、んつっ、ああペリーナイス  
ふ、んあゝイイ、イイよ、ユージ

メスカマキリに捕食されるオスは  
きつとこんな気分なのかもしれない...  
大きな乳房を上下に揺らし、  
俺の上で踊り狂うアキさん。  
その姿は見惚れるほど美しく、  
体の感覚よりも心を満たしていく...



あつ、アアアアアつ！ここ、好きいつ  
ハツ、ハツ、ハツ！アアウウウ！  
キモチいつ！はあつ！ここ、ヨリヨリ、  
んっ、ああつ！キモチいの、ワタシっ



軽く背を逸らし、のスポットから  
ポルチオへと俺を抽送する。  
俺の龟头表面が膣肉のヒダヒダを感じ、  
外国人の感覚を教え込まれていく。

ワタシ、あつ、はああつ...  
もお、我慢の、リミット...ふ、んあつ...  
昨日、ユ一のペニス触つて...ワタシ、  
あ、はつ...もお、我慢できないっ...

はちっ...ばちゅっ...ばちゅっ...  
大きな尻肉が俺の太腿を激しく鳴らす。



アメリカ人夫婦、毎日SEXするよ…  
ハア、ハア…ワタシも、寝る前の日課…  
あつ、シン…だから、ウズウズが…  
ずっと…あ、ううん…ダーリンじゃ、  
なくても…ハッ、ハッ…ユーが、  
可愛いから…んっ、フウ…ずっと、  
我慢…でも、もう…ん…限、界い…

いつか、襲っちゃいそうだな…んっ、  
あつ、あつ、あつふううっ

思ったことを全て吐露するのは、  
きつと酔いのせいもあるのだろう。



ああ、はああつ…やっぱり、イイっ…  
ペニス…硬くて、熱くて…んっ、ふ…  
おマンコ、ピンピン、感じちゃうっ…

俺だから、なのか…?  
それとも、旦那さんの代わりになるなら、  
誰でも良かったのだろうか…。



すばんっ！ばんっ！

＝ッッッッッッッッッッ

ひあつ、あつ、  
あはああんっ……！

気付いた時には、  
俺はアキエさんを  
求めるように  
必死に下から腰を  
打ち付けていた。



んあつ、ユージはっ、ああつ！  
ユージ、イイっ！あつ、あつ！  
そお、そこおっ！いっばい！ああつ  
いっばいノックしてええっ！

ぽっちゅぽっちゅ  
ぽっちゅぽっちゅ  
ぽっちゅぽっちゅ……



あつひいいいんっ！カモーンッ！  
あつ、あつ、あつはあつ！  
ナイスっ、ベリーナイス、あつ、ンッ  
っ、ああつ！カミングっ！っ、あつ！  
アイムカミング！あつ、ああんっ

俺のピストンで2つの乳房が  
バラバラに跳ね躍り、アキエさんは  
快楽に酔い痴れた悦びを歌う。





AAAAAAAAA—  
—oooooooo—

AAAAAAAAA—  
—oooooooo—



悦びに歪んだ  
アキエさんの顔が天を仰ぐ。  
ぶるん…と  
振り子のように揺れる乳房。



その振り子が止まる前に、アキエさんは大きく息を吸い込み、突き刺さったままの下腹部を撫でた。

…っ、ホオ…  
オ…マイガ…  
ユ…ジ、熱いの、  
いっばい出てるよ…

う、うん……  
え？ あっ！

とんでもないことを  
してしまった！  
他人の奥さんに、  
生で中出しなんて…



ご、ごめんなさいっ、  
つい夢中で…

ウフフ、ノープロブレムよ。  
安全日だから安心して？  
それにワタシ、  
これ大好き♪  
これ、一番感じるの♪

え…？

アイラブユーを、  
体で受け止めてる…  
だからキモチい…  
体も、心も…  
ユージも、キモチ  
よかったでしょ？

……

深く考えちゃいけない、  
きつと…  
でも、これじゃまるで、  
俺がアキエさんに  
惹かれ始めているのが  
見透かされているようで…  
俺は戸惑いと恥ずかしさから  
目を逸らし、黙ってしまった。


フウ……オス！  
ワタシもスッキリ、  
ユージもSMXのリハビリ、  
これでギブアンドテイク！  
だから、責任感じる  
ノーよ？ フフ♪

またも俺の心を見透かした  
アキエさんは  
やつぱり軽く俺の頭を  
撫でる。そして…





先にシャワー浴びてくるね♪



と、勝手知ったる我が家のごとく、  
脱ぎ散らかした服を取りまとめ、  
俺を残してリビングから出て行った。

夢心地の快樂の余韻と、  
居酒屋からのほろ酔い気分は、  
その背中を見送りながら、  
俺の臉を重く下ろしていった…。



トトトト…カチャカチャ…  
小気味いいリズムに  
聴いたことのない鼻歌が混じる。  
目を覚ますとソファの上…。  
俺の体には毛布がかけられていた。

あ、起こしちやつた？  
モーニン、ユージ。  
風邪引いてない？  
キツチン借りてるよ

どうやらあのまま眠ってしまった俺を、  
アキエさんは毛布をかけ、  
そつと寝がしておいてくれたらしい。



あ……すみません、俺……

ううん、ノープロブレム。  
ユージも  
ワタシに付き合っ  
飲んでたからね。  
キモチいことしたあと、  
眠くなるのは仕方ないよ

……その余計な一言のせいで  
思い出してしまった……。  
アキエさんの濃密な時間……  
襲われたというか、  
捕食されたというか、  
一方的だったけど、俺たちは……。  
と、記憶を反芻していると、  
毛布の中で俺のムスコも目を覚ます。



シャワー浴びてきたら？  
気分も体もスッキリするよ♪

やっぱり、貞操観念が  
違うのだろうか…。  
もしかして、  
意識してるのは俺だけ…？

悶々と昨日の出来事を思い出すと、  
歯止めのきかない衝動が  
俺の中に湧き上がってくる。



：深く考えないでいいよ。  
ギブアンドテイク：それだけ！！  
だから、ダーリンにも内緒。  
ユージのママにも内緒。それでオスね

俺の難しい顔に微笑みながら、  
朝食をテーブルに運ぶアキエさん。



朝の元気なムスコの勢いも相まった俺は、  
次のメニューを運ぼうと  
キツチンへ向かったアキエさんを、  
背中からギョツと抱きしめた。

あ……ど、どうしたの、  
ユージ……

ゴリッ……  
アキエさんのお尻に、  
むき出しのままの  
俺のチンポをめり込ませる。



ワオ…元気なサムライボーイ、  
でも、ここキッチンよ？SEXするなら  
ブレックファーストのあとで…

…我慢、  
できないです…！

あつ、ちよ、ユーヅツ、ウエイア…  
んっ、ふあっ…！！



ぶりんっ…！  
勢いのままシャツを捲ると  
弾け出る胸。

ちよ…んむっ…ん、フウウ…！

ぷるるんっ



目を塞ぎながら次々に服を脱がし、  
ついにアキエさんは陽光が差し込む  
キッチンで全裸になった。

…あ、明るい、恥ずかしいよ…あつ

カママ

ぬ

キッ

ここに来て初めて恥じらうアキエさん。  
堪らず乳首にかじりつくくと、  
俺のチンポは喘ぎ声にヨダレを垂らす。



ちゅぽっ...ちゅぽっ...  
れろ、ちゅ

アキ...  
アキ...

れろ  
れろ

だ、だめ、ノーよ、ユージ...  
外、道路よ...するならソフア...  
誰かに覗かれるかもしれない!!

たじろぐアキエさんだが、  
俺のおふれ出る欲望は止まらない。  
素肌に汁を塗りつけると、  
アキエさんの視線もテンポと俺の顔を  
交互に行ったり来たりする。

じゃあ、これ着てください

俺は手近にかけてあつた物を  
ハンガーから手渡した。

エエ、ロン…？

当然、不思議そうに  
戸惑うアキエさん。





だが俺はそれすらももどかしく、  
半ば無理やりにアキエさんの腕を  
エプロンに通させた。



あうっ…こ、これじゃ、  
意味がない…っ…あっ…!

ブルッ

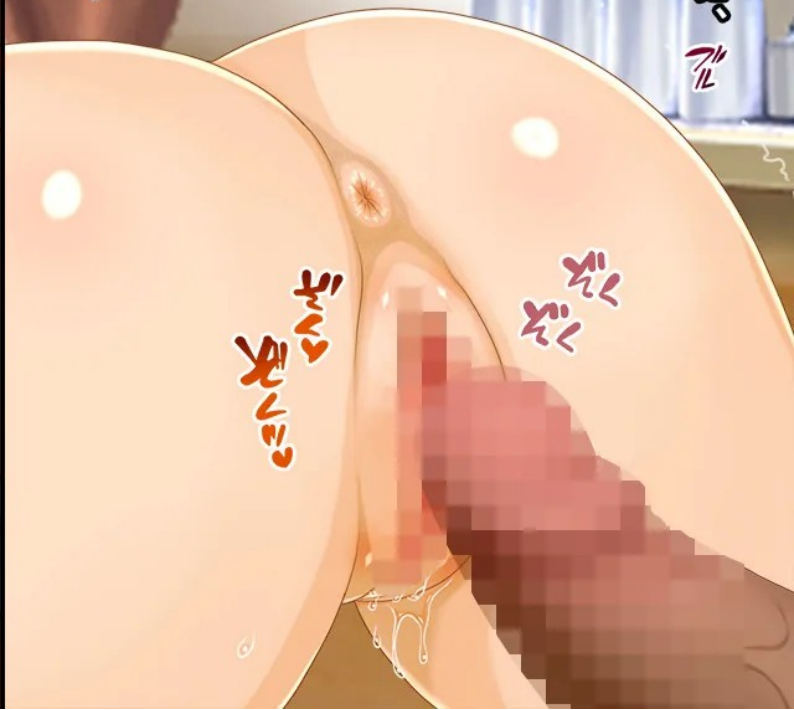
ぶるるんっ!  
背中の紐を引くと、  
サイズの合わないおっぱいは、  
エプロンの両端から飛び出した。



エロい肉厚の外人マンコは、  
少し押し込むだけで、自ずと俺を  
奥へと飲み込み始めた。

なんだ：ハハ：  
アキエさんも濡れてるじゃ  
ないですか

ぬちゅっ：ぷちゅう：  
背中を向けたアキエさんに、  
俺はいきり勃った  
チンポをあてがう。





片足を抱えさらに  
奥へねじ込む。

んあっ、ノーっ！  
ユージ…  
はっ、アアッ…  
ア、アオオオっ…！！

…  
…  
…

ぬる…

ひっぐ…声、  
がああ…だめっ…  
んっ、んんっ、  
フウウ…！！



声をこらえる  
アキエさんのマンロは  
きゅらきゅらに俺を  
締め上げる。

っ…アキ、エさ…  
キモ、チいっ…!

ばちゅっ!  
ばちゅっ!

ひあっ、あっ、  
あうらんっ!  
だめっ、ああっ…  
くっ、ンクウっ



すごく、  
締まってますよっ！  
アキエさん、  
感じてますよ、ねっ！

はっ、あふうっ…  
フウ、フウ…んあっ  
だめえっ、こんなっ…  
あっ、ンンっ…  
こんなの、こんなSEX…  
ふっ、ああっ  
は、はじめ、てええっ…！！

逃げ場を失った体が  
海老反りになる。  
俺はすかさず、昨日学んだ  
アキエさんのイイところに  
チンポを抽送した。



ぬっちやぬっちや  
ぬっちやぬっちや  
ぬっちやぬっちや……

ひいぎっ…  
くっひいいんっ…  
んあっ、  
あ、はああうっ！  
おっきい声、  
はっ、ああっ…  
声、出ちやううっ…！！

八八、嬉しいですよ…  
俺のチンポで、  
いっぱい感じてくれて…  
アキエさん、キモチいって、  
言っってくださいよっ！

ああっ、あああっ！  
キモチいっ！  
ベリーナイス！  
んあっ、あっ、あっ



俺の中で高揚感が  
高まっていく。  
もっと言わせたい、  
もっと感じさせたい。  
高まる射精感を抑え、  
俺は肉厚の股間を  
かき分けるように  
深く突き挿した！

ああっつ！  
オックウウウン！！

ピクッ

エエ

エエ

110

110

110

ぐちゅー！ぐちゅー！  
ぢゅっくぢゅっく…  
股間を密着させ膣肉を  
えぐるようにして  
深く鋭く撫で回す。



アオっ!  
オ、オオオオオオっ!!!  
::っ、くうっ::  
それっ、わひゃっ...  
んあっ、あっ、  
アアアアアアっ!!!  
それだめええっ::  
あっ、ああっ::  
ユージ::ああうっ、  
ユージいいっ!!!

::っ::締まるっ...。  
でも俺は、どうしても  
聞きたい一言が、  
認めて欲しい言葉がある。



…アキエ、さん…  
旦那さんと比べて、  
どうなんです？  
俺のSEX…

ぱん！ぱん！  
ぱん！ぱん！

あんんつ…  
ノー…ノオオツ…  
言えない…んつ、

ハチュッ  
ハチュッ  
ハチュッ  
ハチュッ  
ハチュッ



あぁっ！ユージ、  
ソリー…それだけは…  
あっ、あう！  
ソリー…ノー！  
オアツ、アツフウッ

バクバク

バクバク

バクバク

ハチ

ハチ



ぱんぱんぱん  
ぱんぱんぱん  
ぱんぱんぱんっ!!

アアハアアアアアアアっ!  
許してえっ  
ユージ!!ハッ、ハッ!!  
っ、あ、ああっ!  
らめっ、きもちい  
いいいいっ!!

ぱんぱんぱん  
ぱんぱんぱんっ!!



フウウ、アアア  
アアアアアアア  
カミンググッ、  
もおらめ、  
あっ！あっ！  
イクッ、ユージ  
ワタシいいっ……！！

アキエさんが  
達しようとするのが  
反り上がる体からも  
伝わってくる。

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

俺は自分の限界も堪えるために、  
意地悪くもピストンを止めて、  
アキエさんの絶頂を阻止した。

…っ、う、  
く……ホワイ……？  
…なん、で…どうして…  
フィニッシュして、  
くれないの……？

…わからない？

う、うう…  
お願い、ユージ…  
イカせて…最後まで…  
中に出しても…  
いいから…  
プリーズ、ユージ…

ピタ

だつたら言つてよ…  
俺が欲しい言葉…  
…嘘でも、いいから…っ…





すんっ！

アツ、オオオフ…  
ハアツ、ハアツ…  
ユージ…？

すんっ…  
すんっ…

ひいいんっ！  
あうら…だめ…  
ワタシ…それだけは…

すんっ…  
すんっ…

はっ、かう…  
あああ…イ、イの…  
ユージの、ペニス…  
う、ああ…  
ユージの、SEX…  
キモ、チ…





ばんばんばんばん  
ばんばんっ!!

アアアアアア  
アアアアッ!  
ユージイイ  
イイイイっ!!  
あっ! あっ!!  
アイムフイニッシュ!!

あぁあっ! アイム  
カミングっ、あぁっ  
中に、出してええ  
ええええっ.....!!

ズニズニ

ズニズニ

ちゅ

ちゅ



ହେଉଛି ଏହିପରି  
କିଛି କିଛି କିଛି

F

P

ହେଉଛି

ହେଉଛି

ହେଉଛି

ହେଉଛି

ହେଉଛି

昨日空っぽになつたかと思つたのに、俺は呆れるほど新鮮な精液を発射した。

吸い上げるように収縮を繰り返す肉壁が、アキエさんの呼吸に合わせて俺をさらに子宮へと飲み込んでいく。





…あ…あふう…  
フウ、フウ…  
ユージ…こんなに、  
いっぱい熱い…  
ンっ、ンンっ、フ……

ガクガクと膝を震わせ、  
アキエさんが余韻を噛みしめる。  
その横顔へ目をやると  
アキエさんは  
薄っすら涙を浮かべていた。

あ…ごめん、ごめんなさい…  
俺、調子に乗っちゃって、その…

言わせてしまった…アキエさんの  
大切な人への裏切りの言葉を…。

ううん、いいのよ…  
それでユージが、  
自信持ってくれるなら…  
…んっ

キッチン台に手を突き、  
アキエさんが体を逃す。  
すると抜いた大穴から、  
パタパタ…と  
俺の虚しさが滴り落ちた。



アキエさんがキッチンペーパーで  
股間を拭く様子は、  
とても目のやり場に困った。

申し訳なさにいたたまれなくなり、  
俺が床を拭いていると、  
気を取り直したアキエさんが  
俺の紙くずを回収してくれる。

…もう、仕方のないポニー

困ったように笑うアキエさん。

す、すみません…

裸のままのアキエさんから  
やみ場のなり目線を逸らすと…

でも、よかったのは事実だから…

と、アキエさんは頬を染めた。  
ふと、救われたような気分になった。  
なったのだが、俺の股間は余計なことだ、  
正直にその気持ちを表現する。



♪プ、ウラフ♪ 本当に元気ね、  
ジャパニーズサムライボーイ♪

カア…と、今度は俺が  
顔を染めると…

…え？

アキエさんは俺の頬を  
撫で、そのまま…





ちゅっ  
ちゅっ...

ちゅっ  
ちゅっ

ちゅっ...ちゅっ...はむ、  
ちゅっ、じゅっ...


濃厚なキスで、  
俺の頭が麻痺してゐる。

ん〜まつ〜ハア〜もう、カチカチ〜  
ブレックフリースト、冷めちやうね〜

と、脈打つチンポをこねくり回す。

いいわ〜今日はいつばいしましよ〜  
ワタシがユ一の自信になつてあげる〜

そのままアキエさんはしゃがみこみ、  
俺のチンポを口へ運んだ〜。

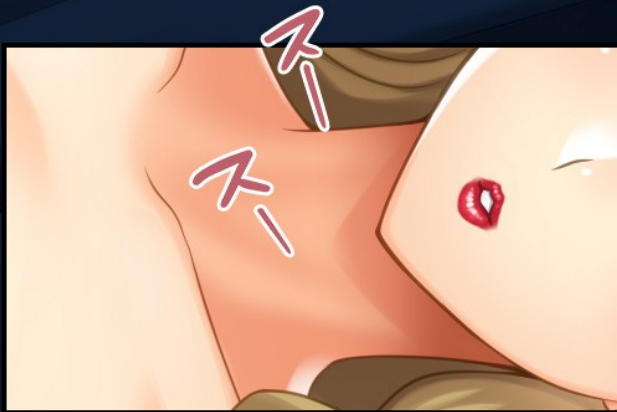


それから俺たちは何度も重なり合った。  
遅い朝食を食べた後は、  
リビングで裸のまま、ねうつりと  
お互いを高め合っては重なり、  
昼食を食べる時間も惜しんで、  
やがて精液が一滴も出なくなるまで、  
ひたすらに激しく求めあった。



気がつくくと2人は疲れ果てたまま、ソファーに重なり合うように眠っていた。

夕暮れ時を過ぎ、陽は沈み、灯りを点けないと手元が見えなくなる頃、



……アキエ、さん……？

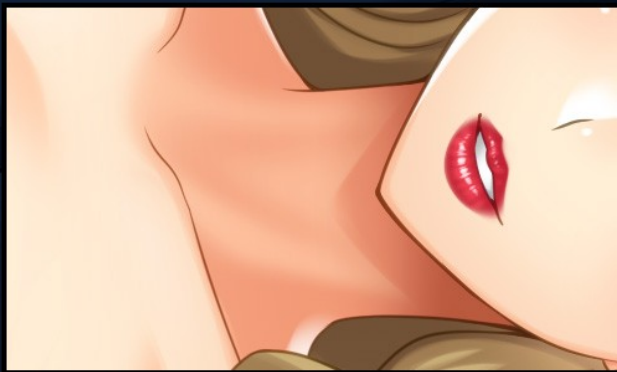
柔らかな温もりに目を覚ますと、アキエさんは安らかに寝息を立てている。その顔は無邪気なアキエさんでも、お姉さんぶったアキエさんでもなく、本当に無垢な天使のような寝顔だった。

……

ふと、唇を奪いたくなる。そこにあるのは性衝動や支配欲じゃなく、やっぱりただ、愛しいと思う気持ちで……。

……ちゅ

アキエさんの言うように、ギブアンドテイクやりハビリだと言いついて聞かせても、やはり俺はこのブロンドの天使に惹かれていた。そう認めざるを得ない、俺のわがままな口付け……。



すると、まるで目覚めのキスのように、  
アキエさんの安らかな顔が歪む。

ぐんぐんグッモーニン、  
ダーリン……

……………

ハッとさせられた……。  
やっぱりこの人は他人のものなのだ……。  
惨めさにいたたまれなくなつた俺は  
アキエさんに毛布をかけ直し、  
その日は先にシャワーを浴びに  
俺はリビングを後にした……。





翌朝、朝食を作ろうとリビングに来ると、そこにアキエさんの姿はなかった。代わりに廊下からはシャワーの音がかすかに漏れ聞こえ、出て行っではないことに少し安心する。さすがに夜中に目を覚まし、お腹が空いたのだろう。リビングの果物やお菓子が申し訳程度に減っていて、俺も少し申し訳ない気持ちになった。

朝食が出来上がる頃、  
リビングに明るいうちととも響いた。

グッドモーニング、ユーヅル

ああ、おはようございます。  
今、朝食を用意しますんで！

昨日、夢中で求めあった出来事…  
そこで得た自分の愚かさの教訓…  
それを踏まえ、俺は少々態度が硬く、  
事務的なトーンになってしまう。





…? どうかした? 具合でも…

なんでもないですよ。  
さあ、朝食にしましょう

!?

簡単にパンとコーヒーと卵料理で、  
俺たちは食事を済ませる。  
その間、俺はアキエさんに  
目を合わせる事ができず、  
気まずい沈黙の食卓となった。

ごちそうさま。美味しかったよ♪

笑顔を作るアキエさんも、  
きつと俺のぎごちなさに気づいている。

じゃあ…

と、片付け始めた俺がキッチンに向かう。  
すると、わかりやすい視線が  
俺の背中を追いかけた。



ユージ、怒ってる？

不安そうな声が背中にかかると。

お、怒って、ませんよ

なら、どうして…

くぐもった声…  
今まで見せたことのないアキエさんが、  
きつと俺の背中を見つめている…。  
食洗機に洗い物を入れ、スイッチを押す。  
ゴウンゴウン！と鳴る耳障りな機械音。  
俺はその騒音がかき消してくれろと  
思ったのかもしれない…。  
つい、本音を口にしてみました。

いけないことしてるんです、俺たち…。  
こんな惨めなこと…もう、俺は…

ユージ…

届いてしまった…聞こえてしまった…  
もう、後戻りはできない。  
あと二日しかない彼女の滞在期間で、  
どうこう出来ない現実なんて、  
最初からわかっていたはずなのに…。

…今日は、別行動にしましょう。  
夕飯がいらなかったらメールください

あ……

言葉を探すアキエさんに見向きもせず、  
俺は突き放すように、  
彼女が慰めを発する前にリビングを出た。

自室にこもってどれくらい経つただろう。玄関のドアが開け閉めされた気配はなく、アキエさんが俺の雰囲気を感じてこの家に留まってくれている...と思おうと、逆に自分が情けなく感じた。思えばアキエさんは事あるごとに、ギブアンドテイクやり八ビリを回し、俺に釘を刺していた。それに...

「でも、本気になっちゃダメよ？」

と、最初につぶやいていた...。あれはやつぱり、俺への牽制だったんだ。彼女にとつての火遊びに、俺がただ舞い上がっただけ...。そう思ったら余計に顔を合わせづらい。受け入れてくれる優しい女性に、勝手に叶わない恋心を抱いて勝手に失恋して、突き放して...。もう消えてなくなりたい...と、そう思った時...

コンコンコン...

控えめに部屋の扉が鳴った。

ユージ？ いる？

扉の向こうから、いつもより一段抑えた  
しおらしいアキエさんの声…。

話、したい…気持ちが悪く着いたら、  
ワタシの部屋、来て…待ってるから…

そう言い残して、人の気配が消えていく。  
…少し、救われた気持ちになった。  
嫌われていないか、怒っていないかと、  
最低限の気持ちは気になつていたから…。  
それに、改まって話をすれば、  
アキエさんの真意もわかるかもしれない。  
からかいから生じた火遊びなのか…。  
それとも、別の何かがあるのか…。  
自分勝手に期待するだけ  
無駄なことはもうわかってる。  
でも、あの人が勇気を出して、  
部屋まで来て声をかけてくれて…  
それだけで、  
俺は再び傷つき、踏ん切りをつける  
勇気を持つことができた。

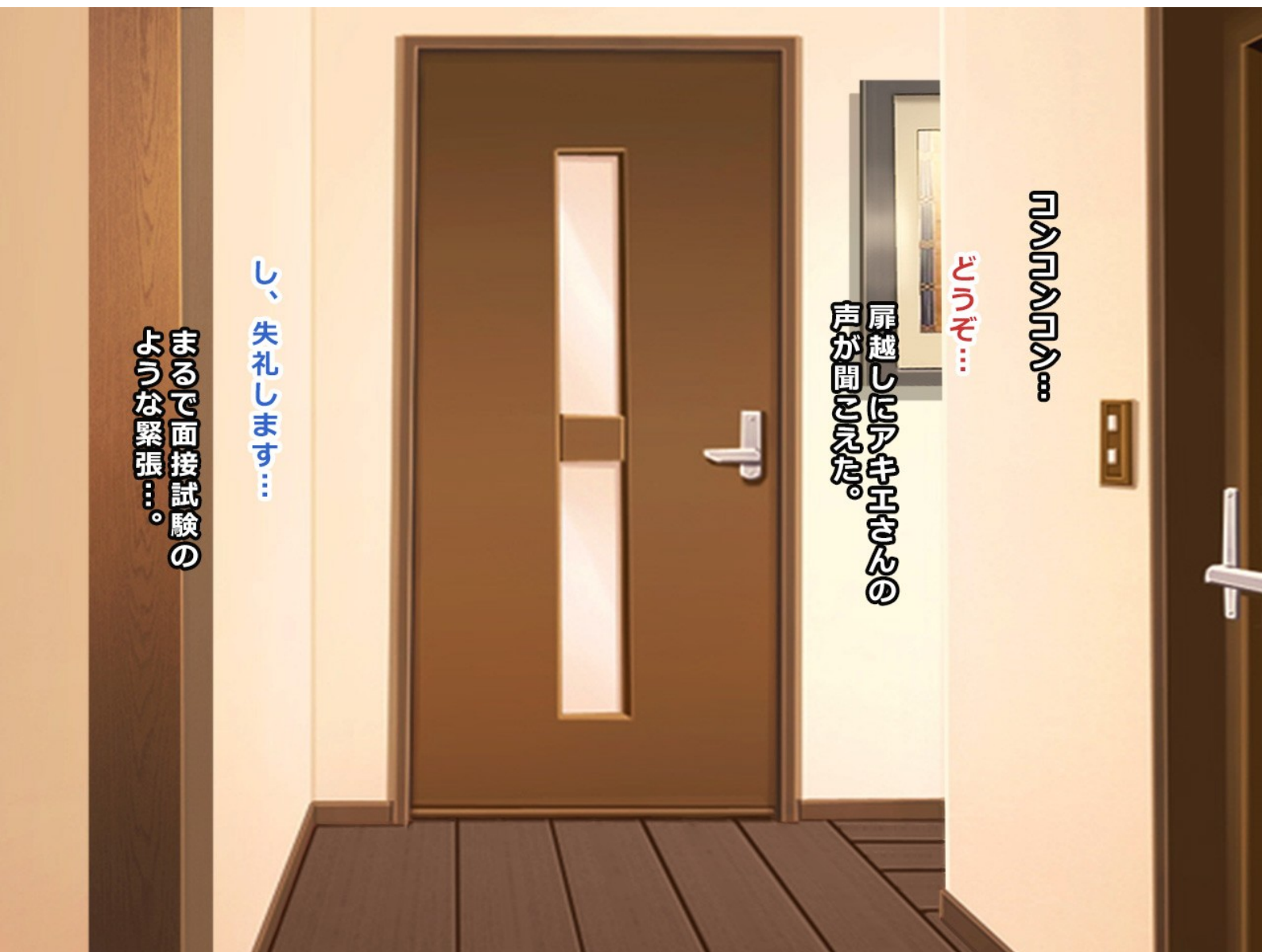
カカカカカ...

ビュン...

扉越しにアキエさんの  
声が聞こえた。

し、失礼します...

まるで面接試験の  
ような緊張...



扉を開けると、  
アキエさんはベッドに腰掛け、  
優しく微笑んでいた。

よかった！  
来てくれないかと思った

やっぱりまだ、  
微妙に目を合わせづらい。  
俺が目を泳がせると…

無理しないでいいよ！  
こっち、ここに座って？

と、ベッドの横に  
座るように促す。



でも…

さすがに俺は気まぐれじゃないし。

こっちの方が、  
顔を見ないでお話できるでしょ？  
…ダメ、かな…？

それが彼女なりの気遣いと気づき、  
今までのことで性的連想をしてしまった  
自分に嫌悪する。



…だ、ダメじゃない、です…  
す、すみません…

赤くなる顔を隠し、俺はアキエさんの  
座る客用ベッドに並んで腰を下ろした。



…サンキュー、ユージ…  
来てくれただけでも嬉しいよ…

ごつちを見ながらアキエさんは微笑む。

あのね、ワタシ…ユージに謝りたい…  
ワタシの気持ち、聞いてくれる？

…そんな、謝るだなんて…

…意外だった。  
勝手な気持ちを押し付けて、  
謝るのは俺の方だと思っていたのに…。

ワタシね…ユージに自信…  
持って欲しかった…これは、本当よ？

…はい

最初は、ユーの恋のりハビリ、  
お世話になる恩返し…そう思ってた…  
そう、思ってたんだけど…

顔を見なくてもアキエさんが俯くのが  
声の向きでわかる。

ワタシ：段々と、気持ちが入って！  
何でもしてあげたくなっちゃって！  
ワタシも、止まらなくなっちゃって！

ベッドから投げ出した  
アキエさんの足が揺れる。

ギブアンドテイク：そう思ってたのに、  
ユーに求められるの、嬉しくなって！

アキエさん！

昨日の朝のリハビリ、嬉しかったの。  
積極的になったユーのSEX、  
気持ち伝わってきて！キモチよくて！  
でも、終わりが来るのがわかってたから、  
ワタシ、見ないフリしてた！

.....

…ユージの気持ちも…  
段々ユーを放っておけなくなってる、  
ワタシの気持ちも…

…  
結果的にそれがユージを傷つけたなら、  
本当にごめんさい！ユージの心、  
いけないことする度に傷ついてたのに…  
本当はもつと早くに、  
終わらせなきゃいけないかったのにね…

そんな…俺は…

やっぱりこの人には、  
俺の何もかもが見通しなんだ…。

お、俺は…

最初からわかってたじゃないか…。  
俺の過去に、俺の心に、  
この人が触れてくれた時から…。

俺はっ…

あなたを好きになれてよかった…

…え？

あなたに出会えて、触れ合えて、  
たくさん、自信をもらった…。  
受け入れてくれて、  
励ましてくれる人がいるんだって、  
希望をもらうことができた…


…ユージ…

だから、謝らないでください…  
ギブアンドテイクでもリハビリでも、  
思い上がった俺が、悪いんですから…

ノー、そんなことないよ…

でも、あなたは人の奥さんなのは  
事実です…俺が、好きになっちゃ  
いけない人を好きになっただことが…





ん…ハア…ユージ…  
ワタシ、最後まで…帰る時まで…  
ダーリンのこと、忘れるよ…

…ア、アキエさん…？

だから、最後のリハビリ…  
love and sex…思い合う2人の…  
愛のあるSEX、しましょう…

頬を染めたアキエさんは、  
再び唇を重ね、俺の服を脱がせにかかる。  
残りの時間、俺の恋人でいてくれる…。  
離れてもまた重なり合うキスに  
答えを感じ取った俺は、  
同じように夢中でアキエさんを脱がせた。

ベッドの上で互いに裸になり、  
貪るように全身にキスを交わし合う。

…あ…ん、ふ…ユージ…  
ちゅ…れる…ん…ちゅ、ちゅ…

首筋へ、肩へ、抱き合うアキエさんが  
吸い付き、舐め、喰み…俺も負けじと  
アキエさんのおっぱいを持ち上げ  
先端を交互にむしゃぶる。

っ、くうんっ…!!

今まで聞いたこともないような声…。  
彼女が昂り、大義名分を捨てて、  
心から感じてくれてるのがわかる。

ちゅばっ、ちゅっ…ぱっ!!

は、あうっ…強、いいん…  
ハア、ハア…ユージ、もっと…

求められるがまま、  
俺は乳首に歯を立て、  
ギリリイっ…

ふあっ、ああんんっ…!!

甘噛みした歯の隙間で転がすと、  
アキエさんは恍惚な笑みで喘いだ。

ほん

…アキエさん…触りたい…

俺はアキエさんの返事を待たず、  
片手を下へと伸ばしていく。  
ぬる…くっちゅっ…

ふ、ぐううっ…ユージ…ん、あっ

しとどに濡れた股間は、  
押しは押しほど肉厚の唇がヨダレを出す。  
ぬちゃ…にちゅっ…びちゅ…くちゅ…

いっ  
うっ

あっ…ああうっ…んふ、んんっ

外側から陰唇を撫で回すと、  
アキエさんは腰を揺らし体をよじらせた。

っ…意地悪ね…いつ…は、あ…  
そんなこと…ん…覚えたの？

俺を大胆にしたの、あなたですよ…

そう、だったね…なら…ワタシも

あつ…

あつ…

アキエさんが反り勃った  
チンポを挿んだ。  
にっちゅ…ぬちゅ…  
ぐっちゅぐっちゅ…  
すでに溢れて汁まみれの  
俺のチンポをアキエさんが  
こねくり回すようにシゴく。

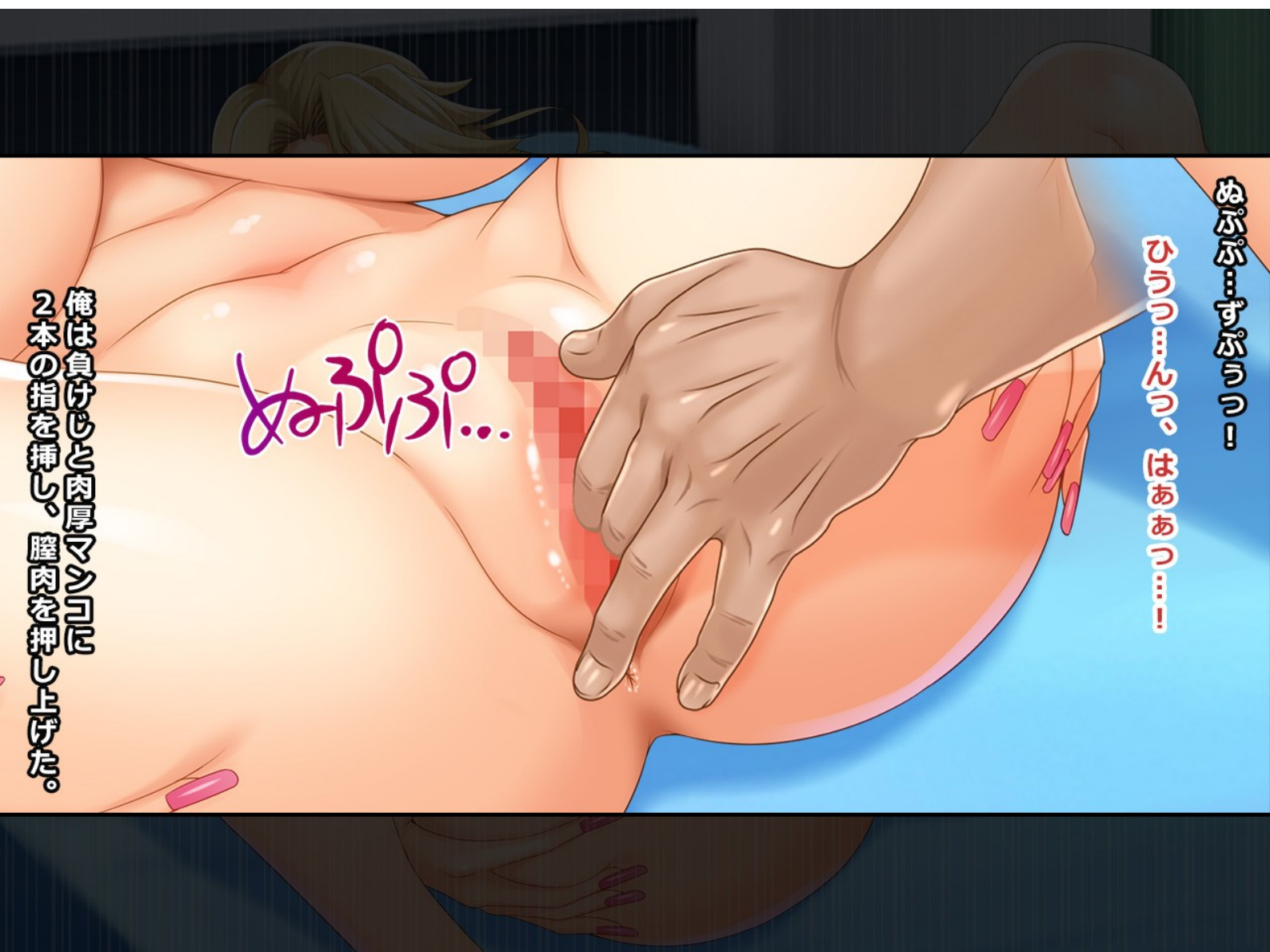
っ…アキ…あつ…キモチ…くっ

め...め...め...

ひ...ひ...はあ...はあ...

ぬ...ぬ...

俺は負けじと肉厚マンコに  
2本の指を挿し、臍肉を押し上げた。





肉を穿つように立てた指で  
恥骨を叩く。

ひいつ、  
はああああんつ…！  
ユージ…ああつ！  
んつ、くうう…  
ホ、オツ…フツ、  
ンンン…！

んんん

んん

んん

ググ

ググ

ぐっぐっぐっぐっ  
ちゅっちゅ…！  
ドロドロだった愛液が  
次第にシャバシャバに  
変わっていく。

あああつ、ノーっ…  
だめ、ワタシもお、  
あ、っ！くあつ…  
あつ！あつ！  
ああ…ん、  
ふうん…！



あ…ハオオ…ハア、ハア…  
だめ、ユージ…ワタシだけ、  
ずるいよ

とろけたままの表情で、  
見上げ目線で訴える  
アキエさん。

ばあ

それに…指だけじゃ、もお…  
きて、ユージ…ユーのペニスで、  
一緒に、キモチよくなつて…

そう言つて白い腿を広げ、  
アキエさんは自らの手で、  
ぱっくりと蜜壺を  
開いて見せた。





あはは...あははははは...

っ、あ...はああ、  
んくううっ...!!

はははは

あははははは

はち切れんばかりに  
成長したチンポを、  
肉厚の褌にゆっくると  
飲み込ませる。

ははは

…ここ、さっき  
触ってたところです

途中で止め角度を変えて  
突き上げるよ…

あんっ…ノ、ノ…  
ユージ…あっ

ハハ

ハハ  
カカカ

ハハ  
ウウウ

ふあっ…あ、ぐう…  
ユージ、だめ…  
んあっ…そこばかり…  
っ、くうんっ、  
意地悪、しないで…っ、  
ああっ…!!

ハハ

股間を広げる手が  
尻肉に食い込む。

…っ…ハッ、ハッ…  
い、挿れて…  
奥まで…んっ、  
んん…うっ…お願い、  
インサート、プリーズ…  
…っあ！

すんすん…  
んんんんんん…

ひあつ、あ、あ  
うううんっ…！！

びくびくびくっ…  
一息に最奥を突くと、  
アキエさんの体が  
小刻みに跳ねた。



…あ…か、はっ…  
イ、イイ…  
こんなの…こんなこと、  
初めてえ…

きゅんきゅんと連続して、  
アキエさんの膣内が収縮する。

…挿れただけで  
いつちやつた？

…っ…聞かないでよ、  
ばか…

顔を赤らめる  
アキエさんに、  
たまらず俺は  
ピストンを開始した。





んあつ...あつ、  
ああつ...だ、だめ...  
つあ、キモ、チいつ...  
オオ、イエスつ、  
イエスつ、つああ!  
イったばかり、  
すごく、感じるつ...  
つあ、はあうつ!

Big

キョッ

グッ

グッ

グッ

グッ

絶頂直後の連続快樂の中、俺の先端が降りてきた硬いコブを捉えた。

あっ！それっ、あっはあああっ！

すっくっ…すっくっ…すっくっ、すっくっ…

カリ首で引っ掛けては撫であげ、また引っ掛けて弾く…。

んんっ、アアアアっ…  
くっ、ひっ…  
やつ、はああんっ！  
だめ、ユージ、  
っあ！アっ、  
オオンっ！…それ、  
またあっ…あっ！  
イクっ、ああっ！



ムッムッ  
ムッムッ  
ムッムッ

あ  
あ

ムッ

ムッ

クッ  
クッ  
クッ  
クッ

ムッ

ひ、ぎいっ…  
ノ—っ、キモチいっ…  
ハッ、ハアッ…  
いっばいイっちやう…  
あっ! あっ!  
ユ—ジ、カミングっ!  
アアアっ、イ、  
イクらうっ…!!!



www.10000.com



つ、ぐつ…ハア、  
ハア、ハア…

絶頂感の余韻の中で、  
アキエさんは再び  
オーガズムに達した。

膣圧が悲鳴のような  
悦びを伝えてくる。

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

フフ、ずるいよ…  
アキエさんばっかり  
キモチよくなつて

だ、だって…ユージが、  
上手だから…  
ワタシのイイところ  
ばっかりするから…


うん、いつぱい  
イつてくれて、  
ありがとう、  
アキエさん…  
アキエさんがキモチいと、  
俺も嬉しい

っ……ばか…

うん…やっと  
馬鹿正直になれた…  
ありがとう、アキエさん…  
また1つ、自信を  
もらえた気がするよ

…ユージ…





やっと正直な、  
晴れた気持ちで、  
この人を  
見下るせた気がした。  
きつと同じ気持ちで、  
アキエさんも  
俺を見上げてくれている。

ユージ……きて……

うん……

俺は求めるアキエさんに  
口づけし、  
緩んだ結合部により深く  
突き立てる。

んふっ、んんんっ……!

んん

ズ  
ズ  
ズ  
ズ

ズ  
ズ  
ズ  
ズ

んっ、んっ、  
ンンっ……んあっ、  
ちゅ、ぢゅっ……  
ぷあっ、あはあっ!

唇を離れた途端、  
呻きは大きな喘ぎで、  
それを機に、俺は  
子宮を叩くような  
ピストンへと  
ギアを上げる。

んん







パンパンパンパン  
パンパンパン！！

んっおおおっ！  
イクっ、イクっ！  
ふうあっ！あああっ！  
中にいっ…  
中に、いっぱい出してっ！  
っああ！

あーっ

あーっ

あーっ

アキエさん…っ…  
イツ、クラっ…！

ああっ！ユージっ、  
ユージっ…！  
ふああっ！  
ウイズミー…一緒に…！  
んああっ…！  
アッハアアアン…！



抱きしめるように  
アキエさんの膣が  
ギユギユツと  
締め上げる中、  
俺は呆れるほどの  
精液を放出した。

何度も脈打ち、  
出しても出しても  
尿道を迫り上がる  
それは、この人の中に  
自分を残そうとする、  
俺の正直な本能…。



っあ…ん、ふ…  
ユージ、まだ…  
…ビクビク、熱い  
ペニスが…あ、んっ

…キモチいいんですね…  
想い合うSEXって…  
こんなにも…

…うん…

小さく微笑み顔いたアキエさんは、  
やつぱり俺の頭を撫でて、  
繋がったまま、ふかふかの胸の中に  
ぎゅっと抱きしめてくれた。  
それから夜が更けるまで、  
数えられないほど繋がった俺たちは、  
アキエさんのベッドで眠り、  
最後の朝を迎えるのだった…。



目が覚めると、温かい感触を感じた…。  
髪を撫でる柔らかく優しい手…。  
天使というか、女神というべきか…。  
窓からの陽光に照らされたアキエさんが、  
微笑みを浮かべて俺を見つめている。

グッモーニン、ユージ…

汗と精液と愛液と…それに混じって香る、  
アキエさんの髪の毛の匂い…。  
最後の日の朝は、  
思っていたよりも優しい朝だった。

おはようございます、アキエさん

いつも通りの挨拶で  
起き上がろうとする。  
しかしアキエさんは…

「…もう少し、  
このまま…」


と、俺を制し、  
体を擦り寄せてきた。

で、でも…

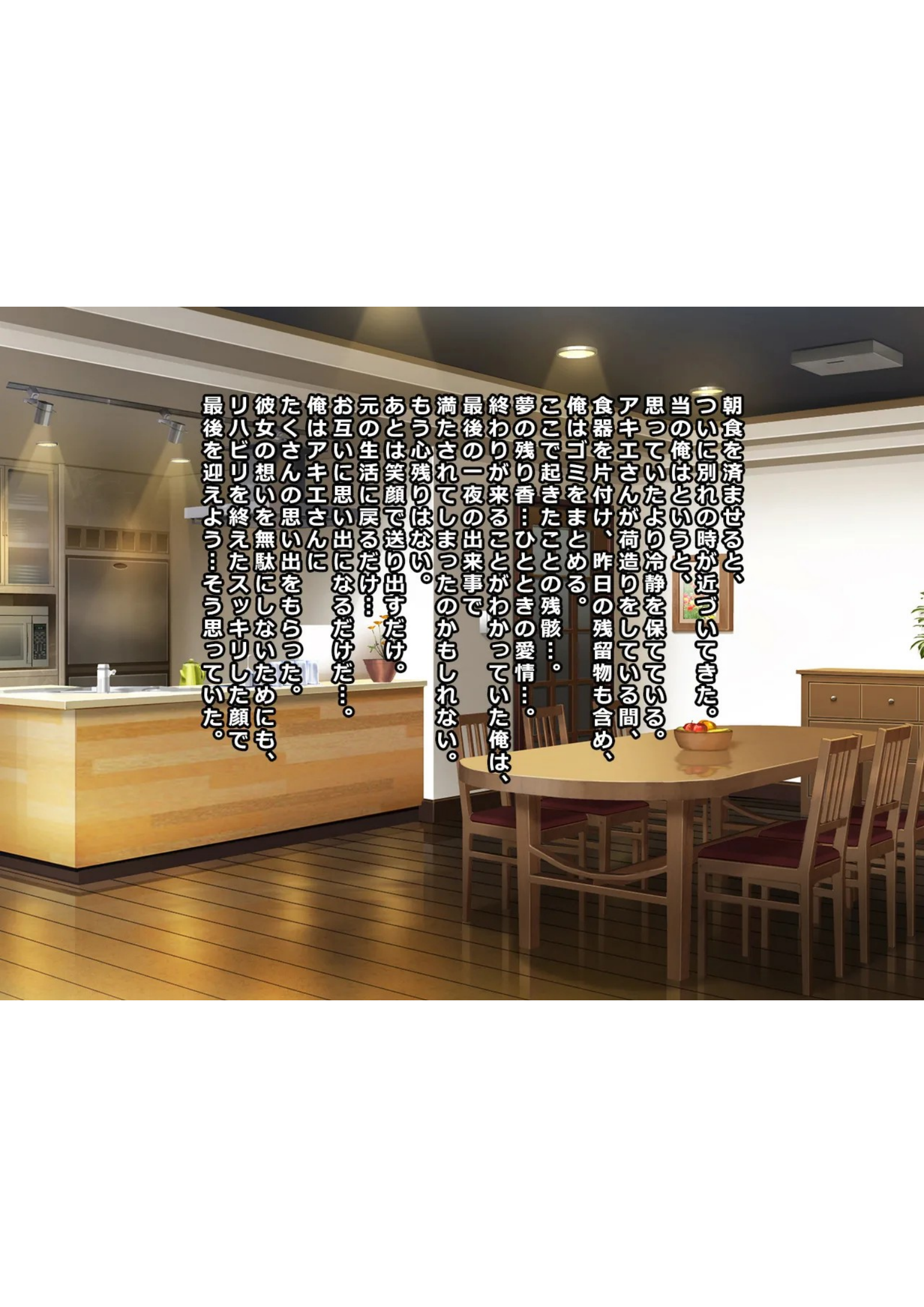
チエックアウトは  
厳密ではないが、  
時間への気遣いを  
口にしようとすると…

「だから、もう少しだけ…  
ちゅ…」

と、大きな胸を押し付けられ、  
俺は抱きしめられてしまう。

A bedroom scene with a bed covered in a blue sheet, a framed picture on the wall, and light blue curtains. The text is overlaid on the scene.

吐息がかかる距離で見つめ合い、  
時折優しく唇をついばむ。  
もちろん股間はビンビンだったが、  
SEXとは違うキモチよさ…  
謂わば心地よさに、俺は安らぎ、  
わずかな時間とともに、  
アキエさんの体温を体に刻ませた…。



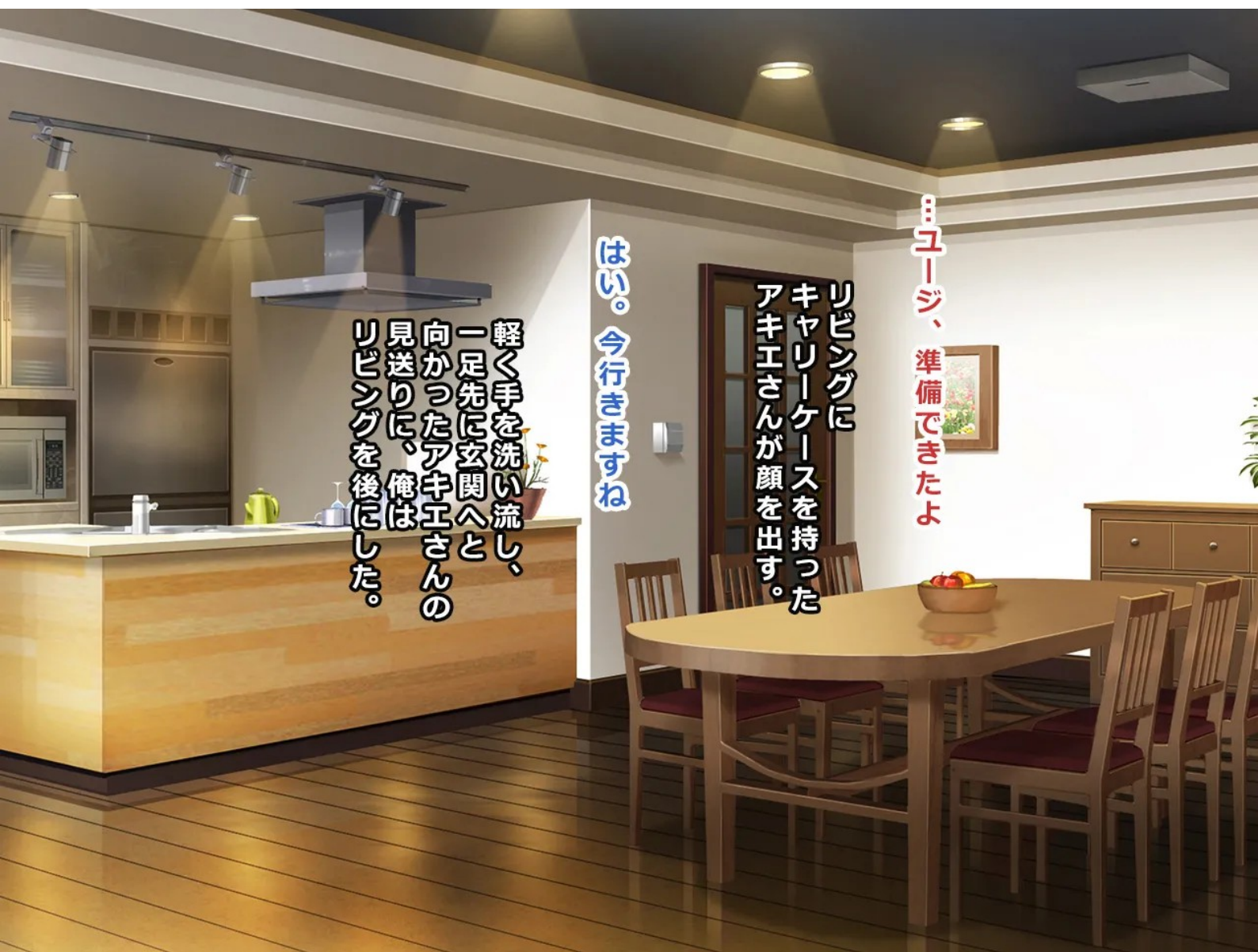
朝食を済ませると、  
ついに別れの時が近づいてきた。  
当の俺はというと、  
思っていたより冷静を保っている。  
アキエさんが荷造りをしている間、  
食器を片付け、昨日の残留物も含め、  
俺はゴミをまとめる。  
ここで起きたことの残骸…。  
夢の残り香…ひとときの愛情…。  
終わりが来ることがわかっていた俺は、  
最後の一夜の出来事で  
満たされてしまったのかもしれない。  
もう心残りはない。  
あとは笑顔で送り出すだけ。  
元の生活に戻るだけ…。  
お互いに思い出になるだけだ…。  
俺はアキエさんに  
たくさんの思い出をもらった。  
彼女の想いを無駄にしないためにも、  
リハビリを終えたスッキリした顔で  
最後を迎えよう…そう思っていた。

ユージ、準備できたよ

リビングに  
キャリーケースを持った  
アキエさんが顔を出す。

はい。今行きますね

軽く手を洗い流し、  
一足先に玄関へと  
向かったアキエさんの  
見送りに、俺は  
リビングを後にした。



清算はクレジット決済でしたよね。  
忘れ物はなさそうですか？

努めて明るく、民泊のスタッフの顔で  
アキエさんに確認する。



うん、大丈夫…

寂しそうなアキエさんの表情に  
込み上げるものを感じるが、  
引き止めることは当然できない。

本当に、玄関までで大丈夫ですか？  
なんなら、駅まで送って行った方が！

うん、いいの！ステーションまでは、  
1人でも行けるから、心配しないで？  
居酒屋に行つた道、覚えてるから！



あ、駅前の居酒屋、行きましたもんね。  
大通りに出たら道なりにまっすぐなのを、  
覚えていてくれたんですね

うん、そういうこと♪  
だから、1人でも大丈夫。安心して♪

アキエさんも持ち前の笑顔を作ったが、  
やはり哀愁は拭いきれない。  
裏表がない人だけに、  
ここは俺が背中を押さなくちゃ…

じゃあ、そろそろ…  
旦那さんの飛行機の間もありますし

うん、そうだね…

ご利用、ありがとうございました。  
機会があれば、また…



…え？ またってなんだ…？  
彼女は日常に帰る…帰さなきゃいけない。  
だから、またなんてあるはずなのに…  
社交辞令が喉を締め上げ、  
俺は言葉に詰まった。

…ユージ？

…ワタシも、楽しかった…  
サンキュー、ユージ…

下げたままの頭に声がかげられる。  
今、顔を上げたら、きっと俺は…。

そっと肩に添えられた手が、  
震える俺の体を起こしていく。



…本当に、  
最後まで放っておけない子…

そして、涙を溜めた俺の顔に、  
困った笑みの顔が近づいて…

…ん…ちゅ…あむ…ちゅ、ん…

名残惜しさを感じる熱いキス…。  
ああ、これでお別れなんだ…  
と、思った時…

…ん…え？

アキエさんは、キスをしながら  
俺の股間をさすり始めた。

…ちゅ…元気に、なつて…ん、ちゅ…  
ユージが元気じゃなきゃ、ワタシ…

アキ、エ、さん…?

ハア…帰りたく、なくなつちやう…

ちゅ…  
ちゅ…


ちゅ…  
ちゅ…

耳元で囁かれ、途端に高まる興奮。  
未練を回にしたアキエさんは、  
艶かしい吐息で胸を押し付ける。

っっ！

俺は気がつくど彼女を抱きしめてるさ。  
それどころか、尻をまさぐり、  
短いスカートを捲り上げて…

…あ、はあ…  
ユ〜ンユ〜ンユ〜ン



情熱的に求められ、アキエさんの  
悦びが鼓膜を震わせる。

最後に…最後にもう一度、抱いて！  
ワタシの大好きな、元気なユージで…

そう言っアキエさんは俺に身を委ねる。  
俺はその火照る体を抱きかかえたまま、  
玄関マットにもつれるように倒れ込んだ。

胸元をブラごと捲り上げると、解放された乳房が勢いよく飛び出す。

アキエさん……!!

うなじから首筋へと愛撫し、片手でショーツも脱がせにかかった。

っ……はあ……ユージ……ああっ

自ら足を動かし、アキエさんもたまらない様子で俺に合わせる。

最後に……ワンモア……  
きで、ユージ……

ぱつくりと開いた股間はすでに迎え入れられる状態になっていた。

いきます、アキエさん……!!

ホ



んつく…  
んッフウウウ…!!!

んつく…  
んッフウウウ…!!!



んつく、ああっ…  
はっ、おおおっ…

んつく…  
んッフウウウ…!!!

んつく  
んつく  
んつく  
んつく

んつく

ずちゅっ…  
ずちゅっ…

ぞんぞん

つあー！ああっ！  
ユージ…んあっ！  
激し…んっ、  
ふ…あ、はああっ…！！

思いの丈を込めたピストンに  
アキエさんが悦びの声を上げる。

はっ、あふうっ…  
ユージ…  
これがワタシの…  
んっ、んうっ…  
ラスト、レッスン…  
はっ、あっ…  
ワタシを忘れて…  
ユージは、前に…

忘れるわけじゃないじゃ  
ないですか！

ぎゅっ。

ぬる…





あーん... あーん...

ひらっ！  
んっんっん...！！

俺は忘れないっ...  
アキエさんのこと、  
この先絶対に...  
何があつても...！！

ずんっ…ずんっ…  
ずんっ…ずんっ…

あっ、はうっ…  
ユ、ユージ…ああっ

あなたを思い出に、  
心に刻んで…  
俺はあなたを自信に  
変えて前に進む！

70  
70





びしょっ... ああんっ

ああんっ

びしょっ

ああんっ

びしょっ

ああんっ

より深い結合、最奥の感触、入り口から最深まで行き来し、俺は体にアキエさんの感触を覚えこませる。

ふっ、ああっ…  
あっ、んんっ…  
ユージ、イイっ、イイよ…  
ああっ、イイっ！  
ユ一は本当に…強く…  
…は、あっ…素敵に…  
んっ、ああっ！



ぽっちゅぽっちゅ  
ぽっちゅぽっちゅ……

ふぁあつ、はっ、  
あぁんっ！  
っあ…ハッ、  
ハアっ…ユージ…  
ワタシの、  
サムライボーイ…  
ああつ！

タアッ

ぽっちゅぽっちゅ  
ぽっちゅぽっちゅ

だから最後に、  
最高の思い出を、  
俺にください！



ぱんっ！ぱんっ！  
ぱんっ！

っ、くうっ…  
あっ、ああっ…  
っ、OKユージ…  
っあ！んんっ…  
な、中、一番奥…

ユージの気持ち…  
ワタシの、一番奥で…  
っあ、ああ…  
きて！ユージ！  
一緒にイってえ！

ぎゅぎゅと締め  
膣肉とともじり、  
昂まり切った  
アキエさんが叫ぶ。

はっっ…



パンパンパンパン  
パンパンパン！！

んあああつ！！  
イイイいつ！！

オオオオ  
オオオオ  
オオオオ

恥骨がぶつかり合う  
激しいピストンに、  
弾ける愛液が  
飛沫となって飛び散る。









吸い付く膣圧を押し分け、  
アキエさんの子宮を  
突き挿すようにして、  
俺は思いの丈を  
彼女の中で弾けさせた。



アキエさんの震える手に  
手繰り寄せられ、  
股間を深く繋げたまま  
キスを交わす。  
唇を強く吸うたびに  
締まる膣は、  
また1つ、忘れられない  
彼女の感覚を、  
俺の深いところへと  
刻んでいった。

ユッか、ハア…  
ユ、ユージ…  
ハア、ハア…ああ、  
ユージ…ん、ちゅ

ほどなくして、  
身なりを整えたアキエさんが  
玄関に戻ってきた。

ユージ、お待たせ！  
んちゅば

あ、アキエさん、  
今タクシーを……  
って、何を  
食べてるんです？

んふふ♪ ユージの  
ザーメン……♪

なっ……？

途端に真っ赤になる俺に、  
アキエさんはいたずらに  
微笑んだ。



フフ、これでワタシの中に、  
ユージがずっと一緒だね♪

「うう、タンパク質と  
してですよね

もお、ロマンがないね。  
少しは喜んでくれるかと  
思ったのに…

えっ、いや、  
う、嬉しいです！  
少し恥ずかしかった  
だけですつて！

うん、わかってる♪

ぐっ…また  
見透かされてる気が…

ウフフ…  
やっぱり可愛いなあ、  
ユージは…



からかい半分で微笑む  
アキエさんは、  
ひと息吸って、  
少し真面目な顔になる。

「ワタシもね、  
ユージのこと、  
忘れないから」

…え？

5泊6日…  
短い間だったけど、  
日本人のダーリンが  
出来たみたいで、  
とつても楽しかった！

アキエさん…



ワタシの可愛いサムライボーイ！  
同じ空の下で、ずっとずっと、  
ユ一の幸せを願ってるからね！



ピポーン

そう言うって俺の頬に優しく触れ、  
柔らかかな、温かみのあるキス…。  
これが本当の最後…けれど俺の心は、  
不思議と満たされていて、  
唇が離れる時、笑顔でいることが出来た。  
その時、玄関先にエンジン音が聞こえ、  
インターホンのチャイムが鳴る。

…はい…あ、お世話様です、只今…。  
アキエさん、タクシー来たみたいですよ

うん、オス…それじゃ、ね

玄関先まで見送るために、  
俺が靴を履こうとすると…



ノー、ここでいいわ。  
ワタシが最後に泣いちゃったら、  
格好つかないでしょう？



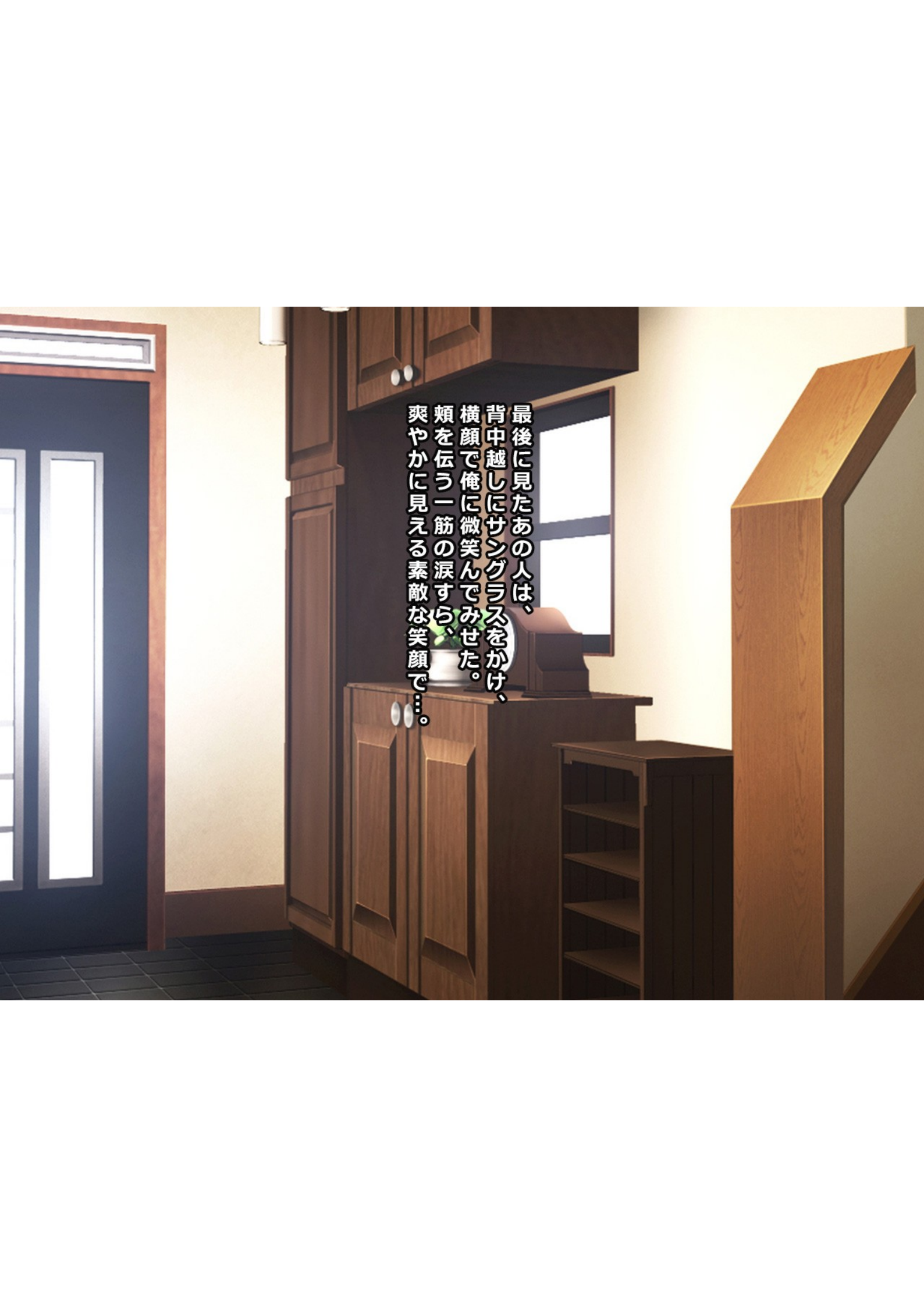
と、優しい笑顔で  
アキエさんが制した。  
そして、やっぱりいつものように  
俺の頭をふわっと撫でて...

Good-bye my boyfriend...  
Wishing your happiness  
for forever...




俺の頭から優しい温もりが離れ、  
開け放たれた玄関ドアの向こう側から、  
爽やかな風が舞い込んできた。

はい…アキエさんも、お元気で…

A kitchen scene featuring dark wood cabinetry. On the left is a doorway with a dark door and a window. In the center, a window is set into the upper cabinets. Below the window is a countertop with a small object. To the right is a tall wooden structure, possibly a refrigerator or a tall cabinet. The floor is dark and tiled.

最後に見たあの人は、  
背中越しにサングラスをかけ、  
横顔で俺に微笑んでみせた。  
頬を伝う一筋の涙すら、  
爽やかに見える素敵な笑顔で…。



あれから数ヶ月：  
田舎で祖母の介護生活を  
余儀なくされた両親に代わって、  
俺は正式に民泊業を継ぐこととなった。  
あの経験のおかげか、  
俺は人に接することに抵抗がなくなり、  
家業という居心地も相まって、  
何とか民泊を営業することが出来ている。  
来客との会話をスムーズに行うために、  
英語も目下勉強中だ。  
恋人はまだ出来ていないけど、  
当面の目標だった社会復帰は、  
どうにか果たすことが出来たのだ。  
：いつかまた、アキエさんのような、  
素敵で大胆な人と出会えることを  
期待していると本音もあるのだけど…  
今の俺はあの人のおかげで、  
人に触れ合うことに対して、  
何とか前向きな考えでいることが  
出来ているのだった。

ピンポーン♪

今日のお客さんの到着を知らせる  
インターホンが鳴った。

「Hello〜♪」

玄関からは陽気なトーンの  
外国人女性の声が聞こえてくる。

はい、只今〜!

今日はどんな出会いがあるのだろうか…。  
アキエさんと約束した幸せへ…  
受け入れてもらうための一歩へと、  
俺は今日も踏み出していく。  
だってあの人が教えてくれた可能性は、  
この世界の誰にも等しく溢れているのだ。

ようひやう

Welcome to my home